

益田市
こども・若者の意識と生活に関する調査
結果報告書

令和6年8月
島根県 益田市

目 次

I. 調査の概要	1
1 調査目的	1
2 調査期間	1
3 調査概要	1
4 報告書をみる際の注意	1
II. アンケート調査結果	2
1 回答者について	2
(1) 性別	2
(2) 年齢	2
(3) 婚姻状況	3
(4) 同居者	3
(5) 主に生計を支えている人	4
(6) 主な収入源	4
(7) 生活水準を世間一般と比べた場合の位置	5
(8) 最終学歴	5
(9) 現在の職業	6
(10) 就業経験	7
2 居場所や周囲とのかかわりについて	7
(1) 回答者自身について	7
(2) 自分は幸せだと思うか	10
(3) 回答者にとっての居場所	11
(4) 周囲との関係	12
(5) どの程度孤独を感じるか	13
(6) 家族・親族とのかかわり	14
(7) 学校で出会った友人との現在のかかわり	15
(8) 職場関係の人との現在のかかわり	17
(9) 地域の人とのかかわり	18
(10) インターネット上における人とのかかわり	20
(11) 他人との付き合い	21
(12) 社会のために役立つことをしたいか	22
(13) 将来に明るい希望を持っているか	22
(14) 20年後の自分	23
(15) 普段自宅で何をしているか	24
3 外出状況について	25
(1) 外出頻度	25
(2) 外出状況が現在の状態となってどのくらい経つか	26
(3) 外出状況が現在の状態になったのは何歳の頃か	26
(4) 外出状況が現在の状態になった理由	27

（5）外出状況が現在の状態になった最も大きな理由	28
（6）過去6か月間で家族以外の人と会話をしたか	28
4 日常生活について	29
（1）生活を円滑に送ることができなかつた経験があるか	29
（2）生活を円滑に送ることができなかつた原因	30
（3）生活を円滑に送ることができなかつた状態が改善した経験	34
（4）状態が改善したきっかけや役に立ったこと	35
（5）生活を円滑に送ることができない状態になったときに相談したい相手	36
（6）相談したくない理由	37
5 子ども・若者を対象とした育成支援機関について	38
（1）子ども・若者を対象とした育成支援機関の認知	38
（2）子ども・若者を対象とした育成支援機関等を利用したことはあるか	39
（3）子ども・若者を対象とした育成支援機関等を利用したいか	39
6 こどもの権利について	40
（1）「児童の権利条約」の認知	40
（2）「こども基本法」の認知	41
7 意見の伝達方法	42
（1）益田市に意見を伝えやすい方法	42
III. 自由回答	44
（1）益田市へ伝えたいこと	44
（2）生活を円滑に送ることができない人への支援のあり方	47
IV. 調査結果からみた課題	50
（1）回答者自身について	50
（2）居場所や周囲とのかかわりについて	50
（3）外出状況について	51
（4）日常生活について	51
（5）子ども・若者を対象にした育成支援機関について	52
（6）益田市へ伝えたいことについて	52

I. 調査の概要

1 調査目的

本調査は、こども基本法第10条に基づく「（仮称）益田市こども計画」策定の基礎資料として、本市のこども・若者及び子育て当事者の現状と課題を把握することを目的として実施しました。

2 調査期間

令和6年4月～5月

3 調査概要

こども・若者の意識と生活に関する調査	
調査対象者	市内在住の16～39歳
調査方法	Webアンケート
アンケート実施方法	QRコード付ハガキを郵送
配布数	1,083人
回収数	162人
回収率	15.0%

4 報告書を見る際の注意

- 図表中の「n=○」とは、集計対象者総数（または分類別の該当対象者数）を示しています。
- 調査結果の比率は百分率（%）で表し、小数点以下第2位を四捨五入して算出しているため、合計が100.0%にならない場合があります。また、複数回答については、合計が100%を超える場合があります。
- グラフに関して、主に単純集計を単数回答は帯グラフ、複数回答は棒グラフとしていますが、選択肢の多い単数回答は棒グラフとしています。また、帯グラフにおいては0.0%の表記を省略しています。複数回答の棒グラフにおいては「その他」「わからない」「特にない」などの選択肢に該当しない、あるいは具体的な内容を含まないという選択肢を除き、割合による降順となっています。なお、集計対象者総数（n）が10人以下の場合は、グラフ等による割合の表記はせず、表により人数を記しています。表に色が付いている場合は、横の項目でみて最も高い割合となっています。
- 集計結果において、回答者を限定する設問などによっては該当者が少なくなり、割合が偏る、あるいは分散することがあります。そのため、集計対象者総数（全体）が10人以下の場合は、コメントしておりません。

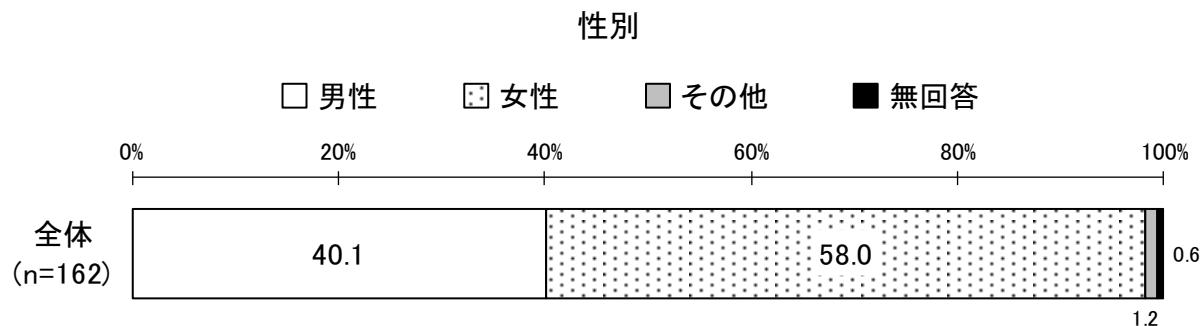
II. アンケート調査結果

1 回答者について

(1) 性別

問1 あなたの性別をお答えください。 (1つだけ)

性別については、全体では「女性」の割合が58.0%で最も高く、次いで「男性」(40.1%)、「その他」(1.2%)の順となっています。

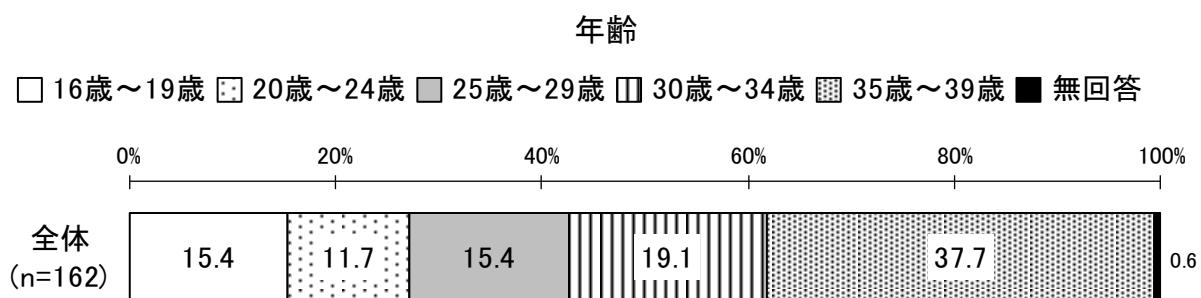


(2) 年齢

問2 あなたの年齢をお答えください。 (1つだけ)

※令和6年1月31日現在の年齢をお答えください。

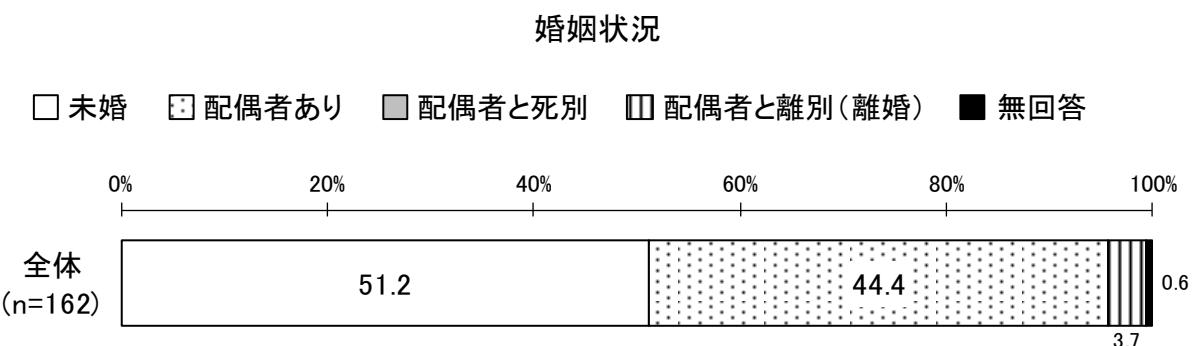
年齢については、全体では「35歳～39歳」の割合が37.7%で最も高く、次いで「30歳～34歳」(19.1%)、「16歳～19歳」「25歳～29歳」(同率15.4%)、「20歳～24歳」(11.7%)の順となっています。



(3) 婚姻状況

問3 あなたの現在の婚姻状況をお答えください。なお、「配偶者」には、婚姻の届出をしていないが、事実上婚姻と同様の状態にある方を含めます。（1つだけ）

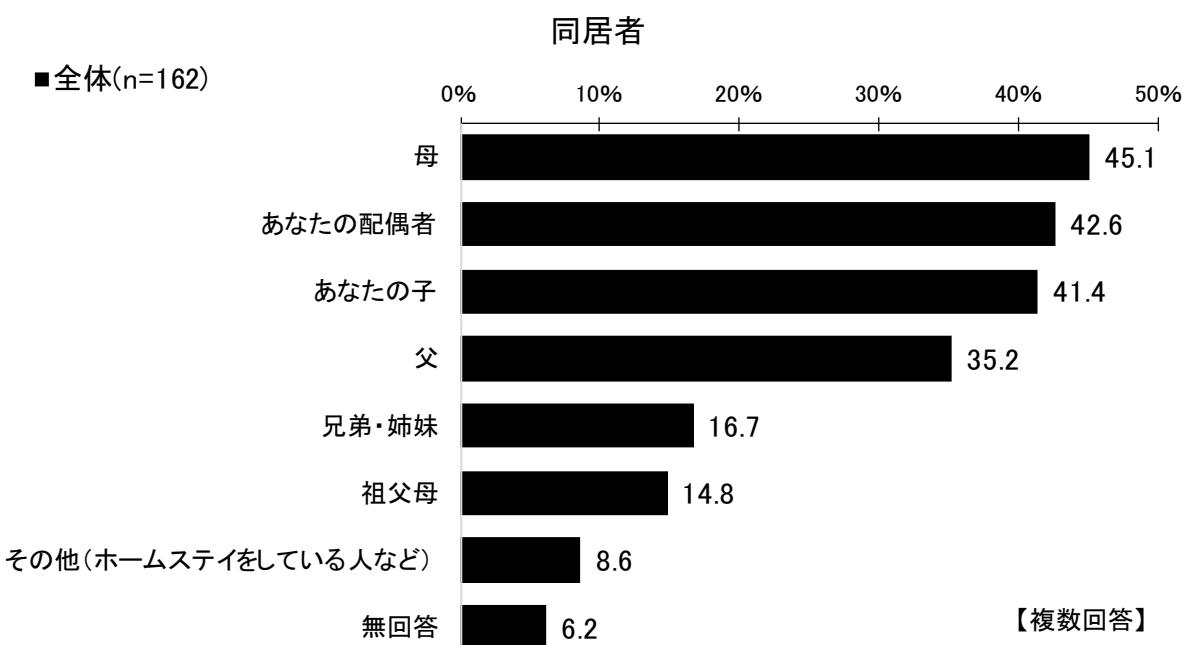
婚姻状況については、全体では「未婚」の割合が51.2%で最も高く、次いで「配偶者あり」(44.4%)、「配偶者と離別（離婚）」(3.7%)の順となっています。



(4) 同居者

問4 現在、あなたと同居している方をお答えください。なお、「配偶者」には、婚姻の届出をしていないが、事実上婚姻と同様の状態にある方を含めます。（いくつでも）
※里親や児童養護施設などで暮らしている方は、「その他」をお選びください。

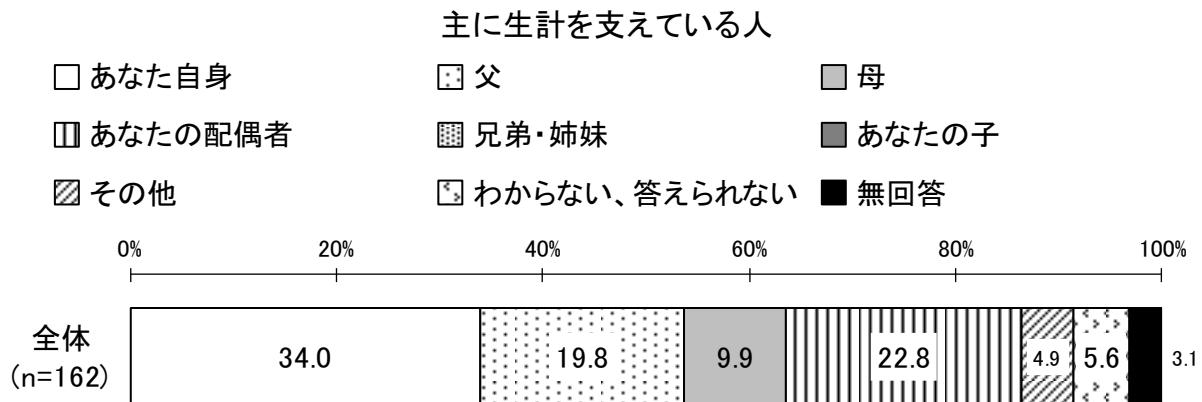
同居者については、全体では「母」の割合が45.1%で最も高く、次いで「あなたの配偶者」(42.6%)、「あなたの子」(41.4%)などの順となっています。



(5) 主に生計を支えている人

問5 (1) 生計を支えている方は主にどなたですか。また、仕送りで生計を立てている方は、その仕送りを主にしてくれている人をお答えください。（1つだけ）

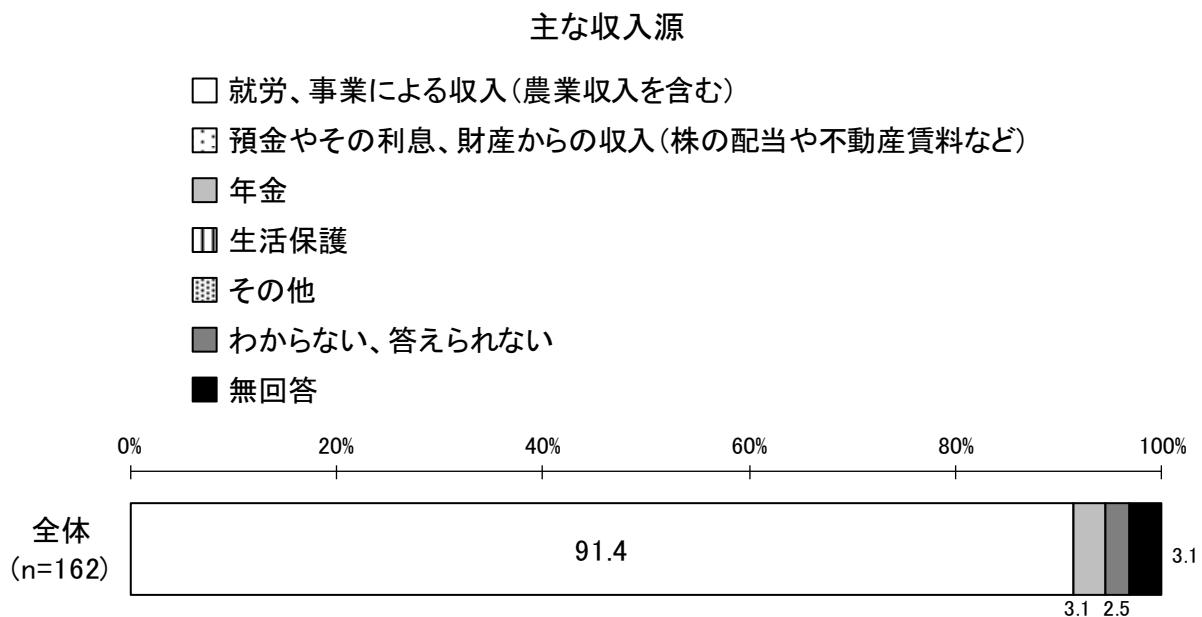
主に生計を支えている人については、全体では「あなた自身」の割合が34.0%で最も高く、次いで「あなたの配偶者」（22.8%）、「父」（19.8%）などの順となっています。



(6) 主な収入源

問5 (2) 主に生計を支えている方の主な収入源は何ですか。（1つだけ）

主な収入源については、全体では「就労、事業による収入（農業収入を含む）」の割合が91.4%で最も高く、次いで「年金」（3.1%）などの順となっています。

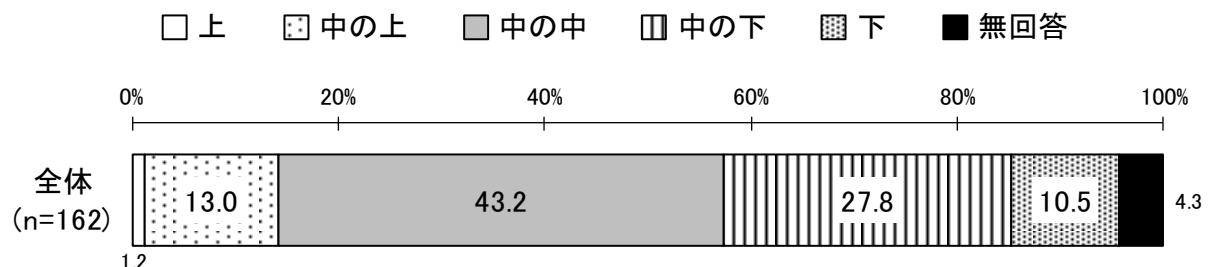


(7) 生活水準を世間一般と比べた場合の位置

問6 あなたの暮らし向き（衣・食・住・レジャーなどの物質的な生活水準）は、世間一般と比べてみて、上から下までのどれにあたると思いますか。あなたの実感でお答えください。（1つだけ）

生活水準を世間一般と比べた場合の位置については、全体では「中の中」の割合が43.2%で最も高く、次いで「中の上」（27.8%）、「中の下」（13.0%）などの順となっています。

生活水準を世間一般と比べた場合の位置

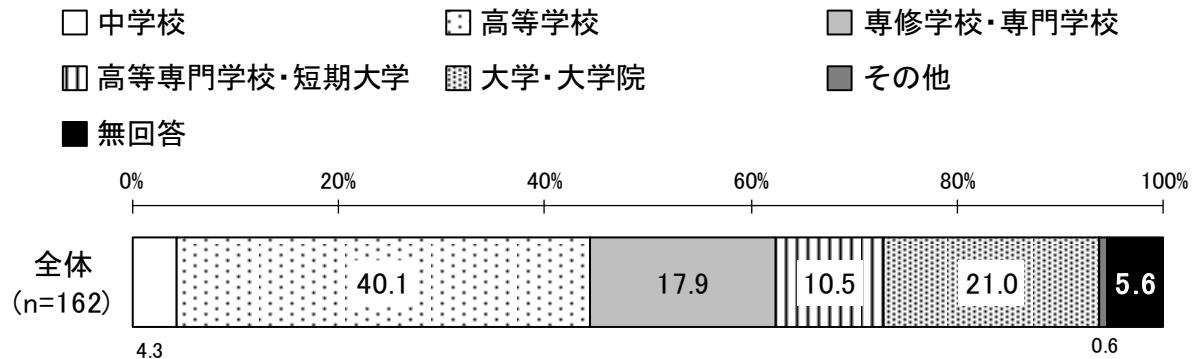


(8) 最終学歴

問7 あなたが最後に卒業（中退を含む）した学校はどこですか。在学中の方は、現在在学している学校をお答えください。（1つだけ）

最終学歴については、全体では「高等学校」の割合が40.1%で最も高く、次いで「大学・大学院」（21.0%）、「専修学校・専門学校」（17.9%）などの順となっています。

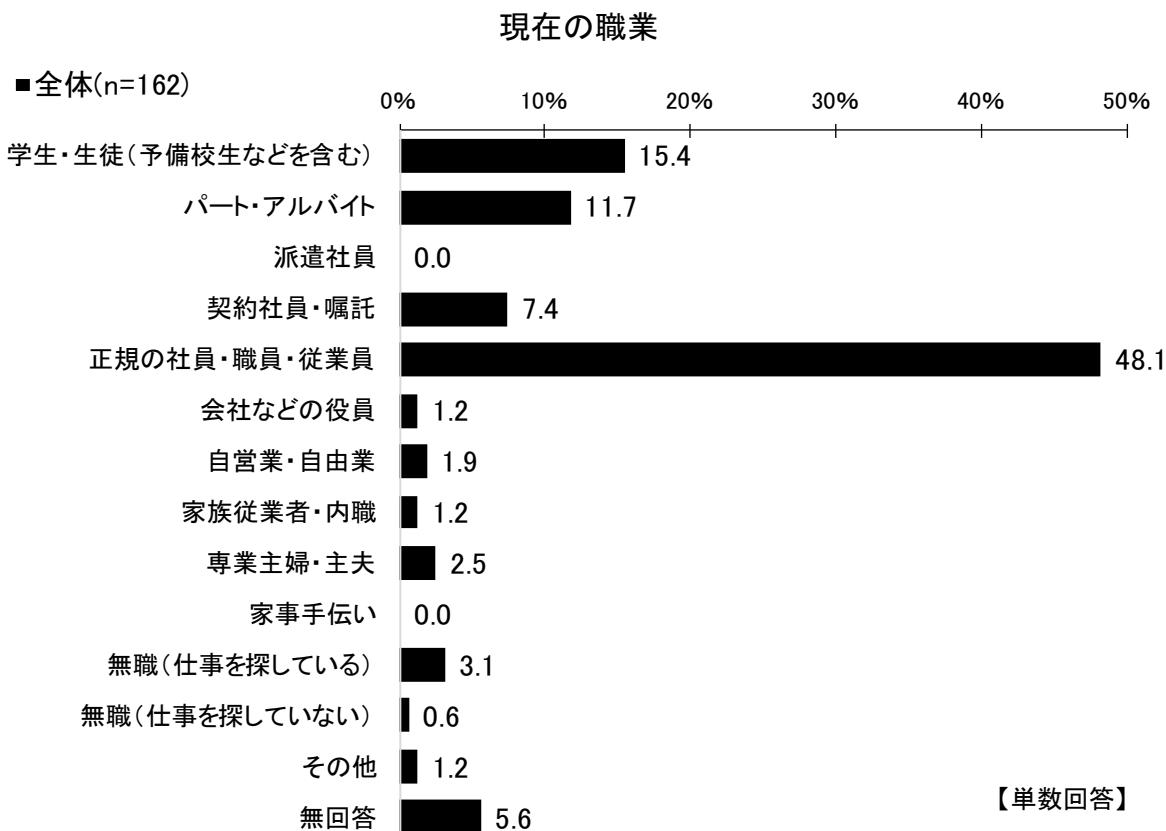
最終学歴



(9) 現在の職業

問8 あなたの現在の仕事をお答えください。 (1つだけ)

現在の職業については、全体では「正規の社員・職員・従業員」の割合が48.1%で最も高く、次いで「学生・生徒（予備校生などを含む）」（15.4%）、「パート・アルバイト」（11.7%）などの順となっています。



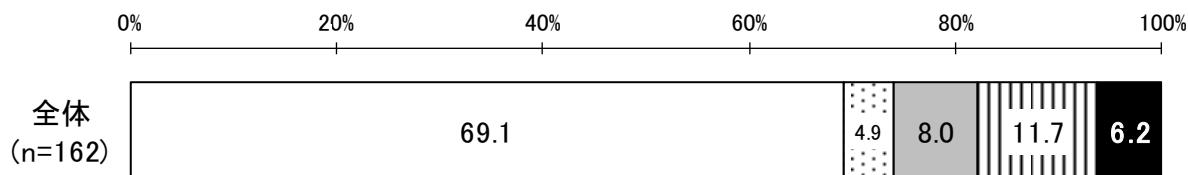
(10) 就業経験

問9 あなたの就業経験についてお答えください。（パート・アルバイトを含む）（1つだけ）

就業経験については、全体では「現在、就業している」の割合が69.1%で最も高く、次いで「これまでに就業経験はない」（11.7%）、「現在は就業していないが、過去に就業経験がある」（8.0%）、「現在、就業しているが、休職や休業中である」（4.9%）の順となっています。

就業経験

- 現在、就業している
- 現在、就業しているが、休職や休業中である
- 現在は就業していないが、過去に就業経験がある
- これまでに就業経験はない
- 無回答



2 居場所や周囲とのかかわりについて

(1) 回答者自身について

問10 あなた自身について、次のことがどのくらいあてはまりますか。「あてはまる」は1を、「どちらかといえば、あてはまる」は2を、「どちらかといえば、あてはまらない」は3を、「あてはまらない」は4を選んでください。（それぞれ1つだけ）

回答者自身について、「あてはまる」（「あてはまる」と「どちらかといえば、あてはまる」の合計）の割合が最も高い項目は『サ）自分の親（保護者）から愛されている』（83.9%）で、次いで『ア）自分には自分らしさというものがある』（75.4%）、『キ）人生で起こることは結局は自分に原因がある』（75.3%）などの順となっており、8割以上が保護者との関係を肯定的に捉えています。一方、「あてはまらない」（「どちらかといえば、あてはまらない」と「あてはまらない」の合計）の割合は『ソ）自分は役に立たないと強く感じる』（64.9%）が最も高く、次いで『ス）自分の考えをはつきり相手に伝えることができる』（47.5%）、『コ）自分らしさを強調するより他人と同じことをしていると安心』（46.9%）などの順となっています。

回答者自身について

全体(n=162)

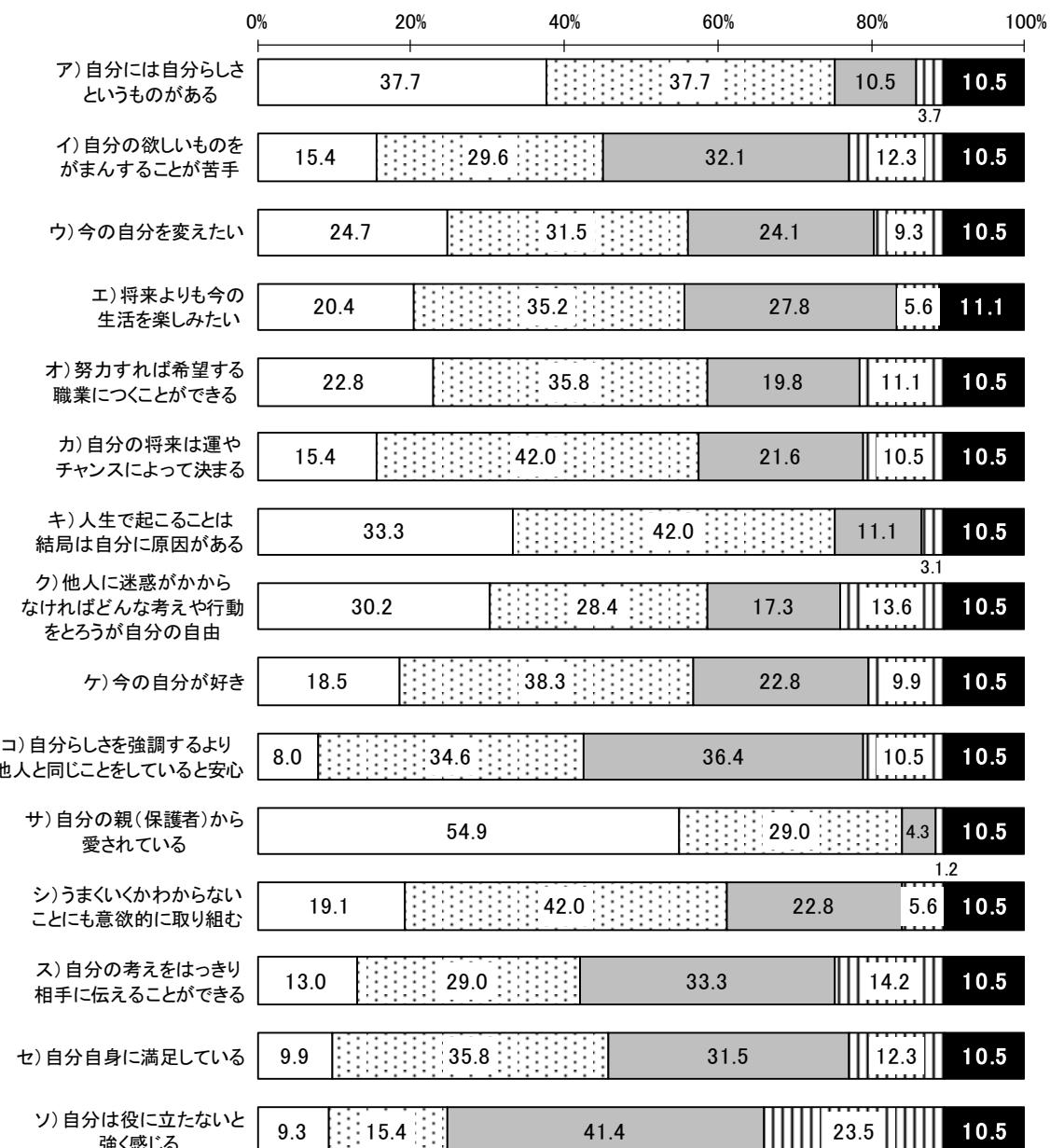
□ あてはまる

□ どちらかといえば、あてはまる

■ どちらかといえば、あてはまらない

■ あてはまらない

■ 無回答



オ)回答者自身は努力すれば希望する職業につくことができるかについて、年齢別でみると、おおむね年齢層が上がるにつれて“あてはまる”的割合が低くなっています。

幸福度別でみると、『そう思う（自分は幸せだと思う）』では「あてはまる」（38.5%）、『どちらかといえば、そう思う（自分はどちらかといえば幸せだと思う）』では「どちらかといえば、あてはまる」（45.6%）、『どちらかといえば、そう思わない（自分はどちらかといえば幸せだと思わない）』では「どちらかといえば、あてはまらない」（50.0%）の割合がそれぞれ最も高く、自分が幸せだと感じている人ほど努力すれば希望する職業につくことができると考えていることが伺えます。

回答者自身について／オ)努力すれば希望する職業につくことができる／年齢別、幸福度別

(上段：n、下段：%)

		対象者 (n)	あてはまる	どちらか といえ ば、あて はまる	どちらか といえ ば、あて はまらない	あてはま らない	無回答
全体		162	37 22.8	58 35.8	32 19.8	18 11.1	17 10.5
年 齢	16歳～19歳	25	12 48.0	7 28.0	3 12.0	0 0.0	3 12.0
	20歳～24歳	19	3 15.8	9 47.4	2 10.5	3 15.8	2 10.5
	25歳～29歳	25	3 12.0	9 36.0	7 28.0	3 12.0	3 12.0
	30歳～34歳	31	8 25.8	10 32.3	5 16.1	6 19.4	2 6.5
	35歳～39歳	61	11 18.0	23 37.7	15 24.6	6 9.8	6 9.8
だ 自 分 と 思 は う 幸 か せ	そう思う	52	20 38.5	19 36.5	9 17.3	4 7.7	0 0.0
	どちらかといえば、 そう思う	68	13 19.1	31 45.6	14 20.6	10 14.7	0 0.0
	どちらかといえば、 そう思わない	14	1 7.1	4 28.6	7 50.0	2 14.3	0 0.0
	そう思わない	5	1 20.0	0 0.0	2 40.0	1 20.0	1 20.0

ケ)回答者自身は今の自分が好きかについて、幸福度別でみると、『そう思う（自分は幸せだと思う）』では「あてはまる」（46.2%）、『どちらかといえば、そう思う（自分はどちらかといえば幸せだと思う）』では「どちらかといえば、あてはまる」（51.5%）、『どちらかといえば、そう思わない（自分はどちらかといえば幸せだと思わない）』では「どちらかといえば、あてはまらない」（57.1%）の割合がそれぞれ最も高く、自分が幸せだと感じている人ほど今の自分が好きだと考えていることが伺えます。

回答者自身について／ケ)今の自分が好き／幸福度別

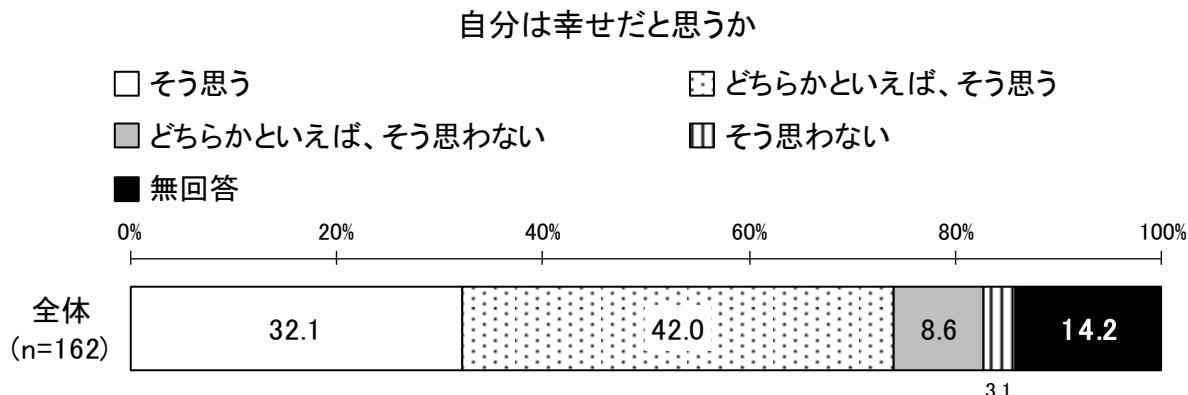
(上段：n、下段：%)

		対象者 (n)	あてはまる	どちらか といえ ば、あて はまる	どちらか といえ ば、あて はまらない	あてはま らない	無回答
全体		162	30 18.5	62 38.3	37 22.8	16 9.9	17 10.5
だ 自 分 と 思 は う 幸 か せ	そう思う	52	24 46.2	19 36.5	8 15.4	1 1.9	0 0.0
	どちらかといえば、 そう思う	68	4 5.9	35 51.5	20 29.4	9 13.2	0 0.0
	どちらかといえば、 そう思わない	14	1 7.1	2 14.3	8 57.1	3 21.4	0 0.0
	そう思わない	5	0 0.0	1 20.0	0 0.0	3 60.0	1 20.0

(2) 自分は幸せだと思うか

問11 あなたは、今、自分が幸せだと思いますか。あなたの実感をお答えください。（1つだけ）

自分は幸せだと思うかについては、全体では「どちらかといえば、そう思う」の割合が42.0%で最も高く、次いで「そう思う」（32.1%）が続き、これらを合わせた“幸せだと思う”的割合は74.1%となっています。一方、“幸せだと思わない”（「どちらかといえば、そう思わない」と「そう思わない」3.1%の合計）の割合は11.7%となっています。



自分は幸せだと思うかについて、生活水準別でみると、“幸せだと思う”的割合は生活水準が下がるにつれて低くなっています。

自分は幸せだと思うか／生活水準別

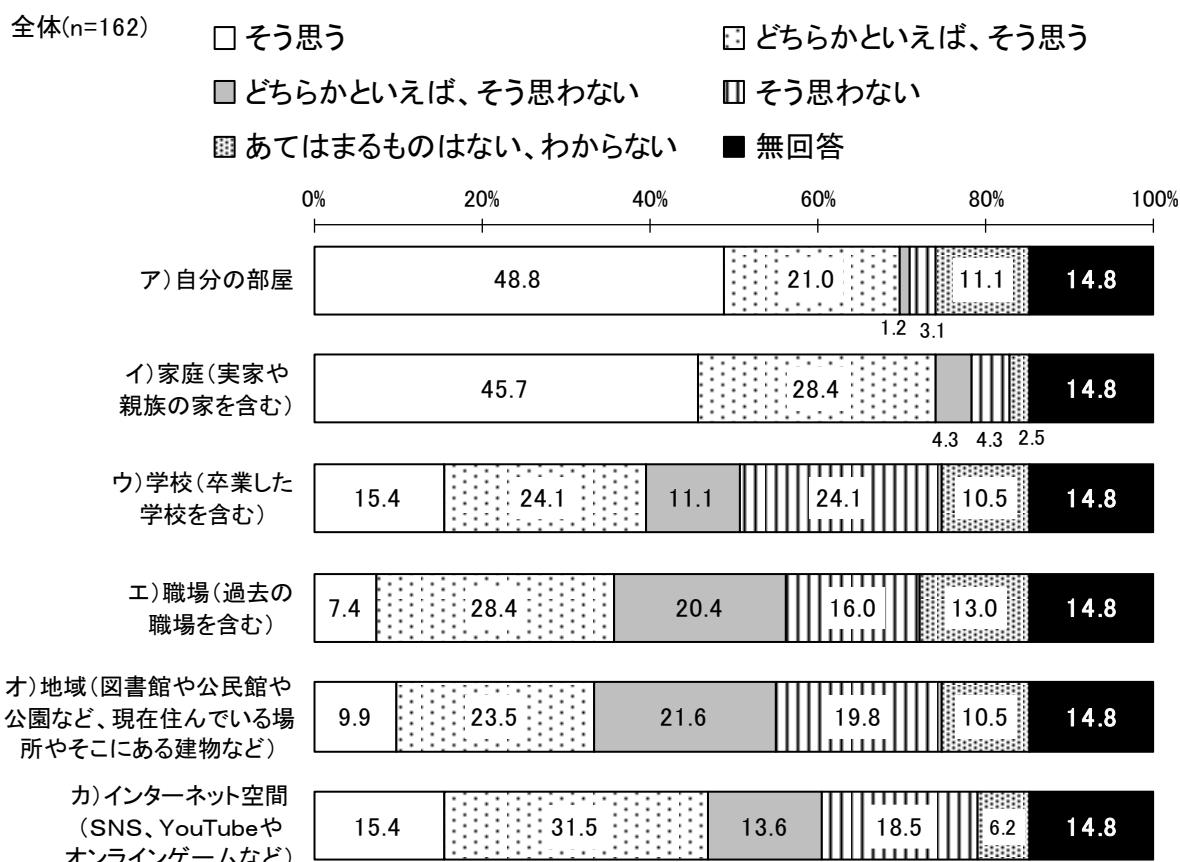
		対象者 (n)	そう思う	どちらかといえば、そう思う	どちらかといえば、そう思わない	そう思わない	無回答	(上段: n、下段: %)
全体		162	52 32.1	68 42.0	14 8.6	5 3.1	23 14.2	
生活水準別	上	2	1 50.0	1 50.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	中の上	21	11 52.4	7 33.3	1 4.8	0 0.0	0 0.0	2 9.5
	中の中	70	23 32.9	34 48.6	5 7.1	0 0.0	0 0.0	8 11.4
	中の下	45	12 26.7	23 51.1	5 11.1	1 2.2	4 8.9	4 8.9
	下	17	4 23.5	3 17.6	2 11.8	4 23.5	4 23.5	4 23.5

(3) 回答者にとっての居場所

問12 次の場所は、今のあなたにとって居場所（ほっとできる場所、居心地の良い場所など）になっていますか。（それぞれ1つだけ）

回答者にとっての居場所について、“思う”（「そう思う」と「どちらかといえば、そう思う」の合計）の割合が最も高い項目は『イ）家庭（実家や親族の家を含む）』（74.1%）で、次いで『ア）自分の部屋』（69.8%）、『カ）インターネット空間（SNS、YouTubeやオンラインゲームなど）』（46.9%）などの順となっており、7割以上が家族と良好な関係を築けている一方で、学校や職場などの日常生活を送る身近な場所よりもインターネット上に自分の居場所を見出している人が多くなっています。一方、“思わない”（「どちらかといえば、そう思わない」と「そう思わない」の合計）の割合は『オ）地域（図書館や公民館や公園など、現在住んでいる場所やそこにある建物など）』（41.4%）が最も高く、次いで『エ）職場（過去の職場を含む）』（36.4%）、『ウ）学校（卒業した学校を含む）』（35.2%）などの順となっています。

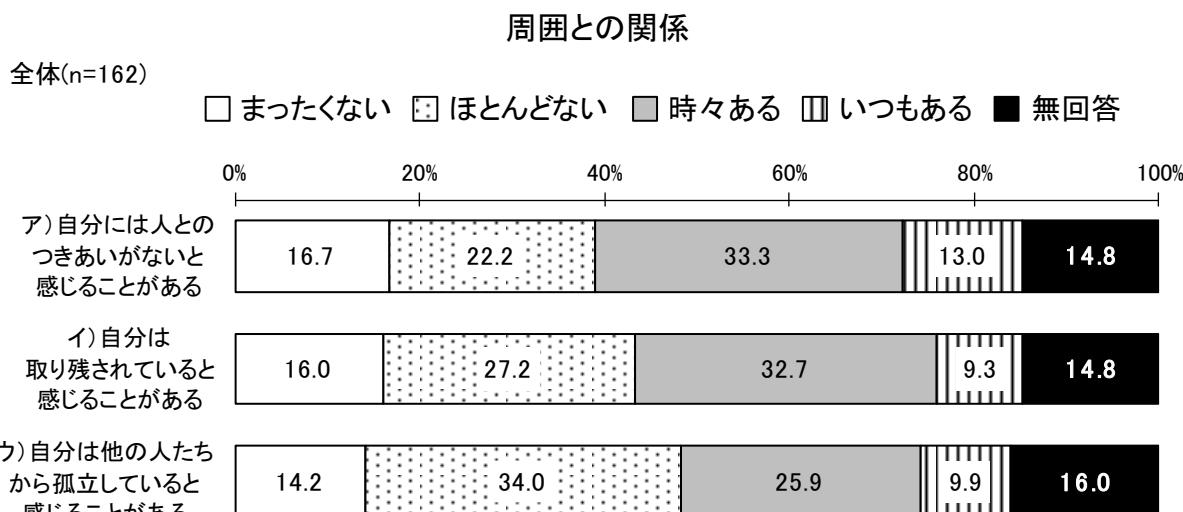
回答者にとっての居場所



(4) 周囲との関係

問13 以下のア)～ウ)の項目について、あなたはどれくらいの頻度で感じていますか。
(それぞれ1つだけ)

周囲との関係について、“感じない”（「まったくない」と「ほとんどない」の合計）の割合が最も高い項目は『ウ)自分は他の人たちから孤立していると感じることがある』（48.2%）で、次いで『イ)自分は取り残されていると感じることがある』（43.2%）、『ア)自分には人とのつきあいがないと感じることがある』（38.9%）の順となっています。一方、“感じることがある”（「時々ある」と「いつもある」の合計）の割合は『ア)自分には人とのつきあいがないと感じることがある』（46.3%）が最も高く、次いで『イ)自分は取り残されていると感じることがある』（42.0%）、『ウ)自分は他の人たちから孤立していると感じることがある』（35.8%）の順となっています。



イ)周囲との関係で自分は取り残されていると感じることがあるかについて、幸福度別でみると、“感じない”的割合は自分が幸福だと感じている人ほど高くなっています。

周囲との関係／イ)自分は取り残されていると感じることがある／幸福度別

		対象者 (n)	(上段: n、下段: %)				
			まったくない	ほとんどない	時々ある	いつもある	無回答
全体		162	26 16.0	44 27.2	53 32.7	15 9.3	24 14.8
だ 自 と 思 は う 幸 か せ	そう思う	52	19 36.5	16 30.8	13 25.0	4 7.7	0 0.0
	どちらかといえば、 そう思う	68	5 7.4	25 36.8	31 45.6	6 8.8	1 1.5
	どちらかといえば、 そう思わない	14	2 14.3	1 7.1	7 50.0	4 28.6	0 0.0
	そう思わない	5	0 0.0	2 40.0	2 40.0	1 20.0	0 0.0

ウ) 周囲との関係で自分は他の人たちから孤立していると感じることがあるかについて、性別でみると、“感じることがある”の割合は女性が41.5%で、男性（24.6%）に比べて高くなっています。

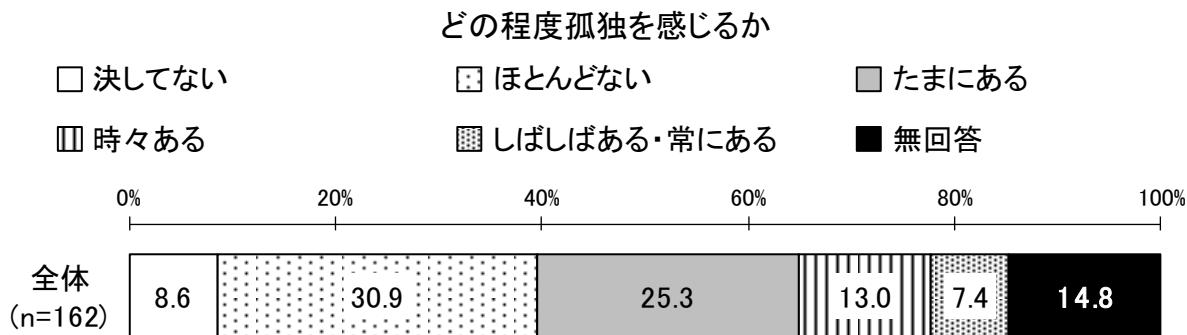
周囲との関係／ウ)自分は他の人たちから孤立していると感じることがある／性別

		対象者 (n)	(上段: n、下段: %)				
			まったく ない	ほとんど ない	時々ある	いつもあ る	無回答
全体		162	23 14.2	55 34.0	42 25.9	16 9.9	26 16.0
性別	男性	65	13 20.0	25 38.5	8 12.3	8 12.3	11 16.9
	女性	94	10 10.6	30 31.9	31 33.0	8 8.5	15 16.0
	その他	2	0 0.0	0 0.0	2 100.0	0 0.0	0 0.0

(5) どの程度孤独を感じるか

問14 あなたはどの程度、孤独であると感じことがありますか。（1つだけ）

どの程度孤独を感じるかについては、全体では「ほとんどない」の割合が30.9%で最も高く、これに「決してない」（8.6%）を合わせた“感じることがない”の割合は39.5%となっています。一方、“感じがある”（「たまにある」25.3%「時々ある」13.0%「しばしばある・常にある」7.4%の合計）の割合は45.7%で、孤独を感じことがある人が、感じたことがない人を上回ります。



どの程度孤独を感じるかについて、性別でみると、“感じがある”的割合は女性が51.0%で、男性（35.4%）に比べて高くなっています。

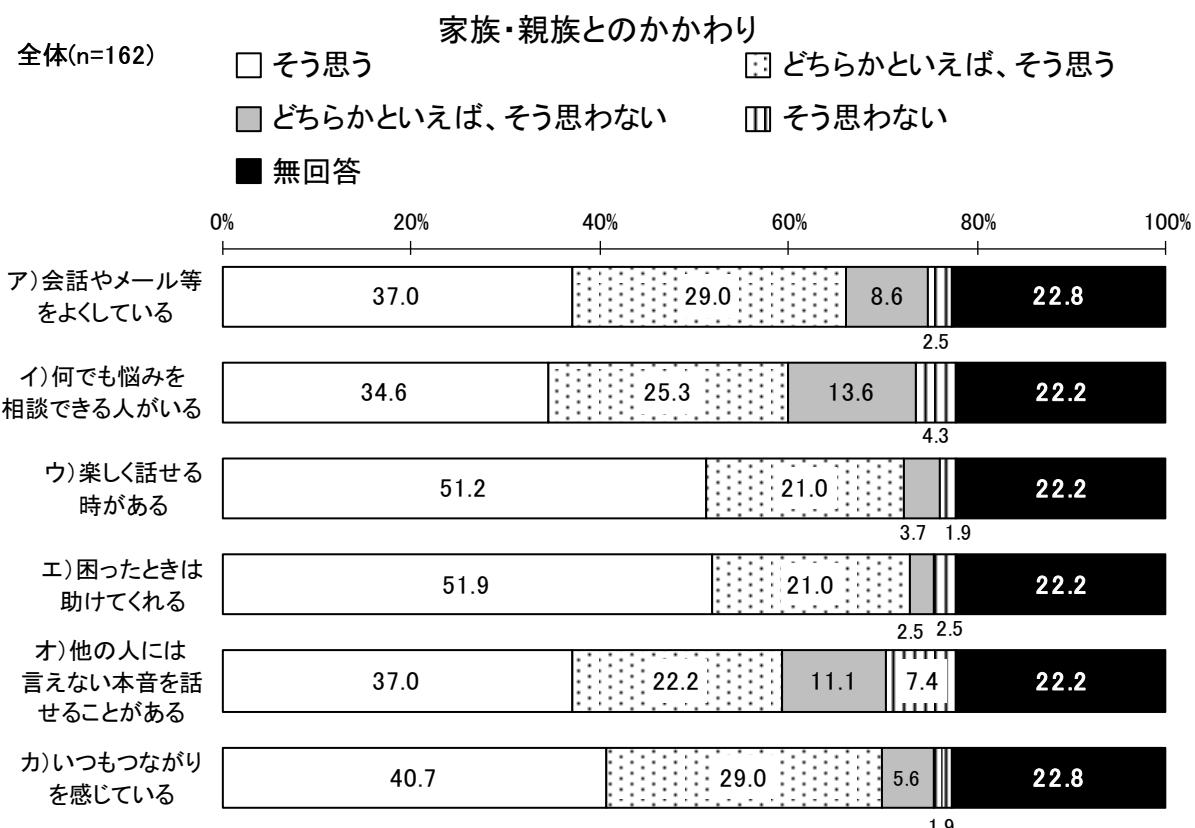
どの程度孤独を感じるか／性別

		対象者 (n)	(上段: n、下段: %)					
			決してな い	ほとんど ない	たまにあ る	時々ある	しばしば ある・常 にある	無回答
全体		162	14 8.6	50 30.9	41 25.3	21 13.0	12 7.4	24 14.8
性別	男性	65	9 13.8	23 35.4	12 18.5	6 9.2	5 7.7	10 15.4
	女性	94	5 5.3	27 28.7	28 29.8	13 13.8	7 7.4	14 14.9
	その他	2	0 0.0	0 0.0	1 50.0	1 50.0	0 0.0	0 0.0

(6) 家族・親族とのかかわり

問15 家族・親族とあなたのかかわりは、どのようなものですか。（それぞれ1つだけ）

家族・親族とのかかわりについて、“思う”（「そう思う」と「どちらかといえば、そう思う」の合計）の割合が最も高い項目は『エ) 困ったときは助けてくれる』（72.9%）で、次いで『ウ) 楽しく話せる時がある』（72.2%）、『カ) いつもつながりを感じている』（69.7%）などの順となっています。一方、“思わない”（「どちらかといえば、そう思わない」と「そう思わない」の合計）の割合は『オ) 他の人には言えない本音を話せることがある』（18.5%）が最も高く、次いで『イ) 何でも悩みを相談できる人がいる』（17.9%）、『ア) 会話やメール等をよくしている』（11.1%）などの順となっています。



イ) 家族・親族とのかかわりで何でも悩みを相談できる人がいるかについて、幸福度別でみると、幸福度が高い人ほど“思う”的割合が高くなっています。

家族・親族とのかかわり／イ)何でも悩みを相談できる人がいる／幸福度別

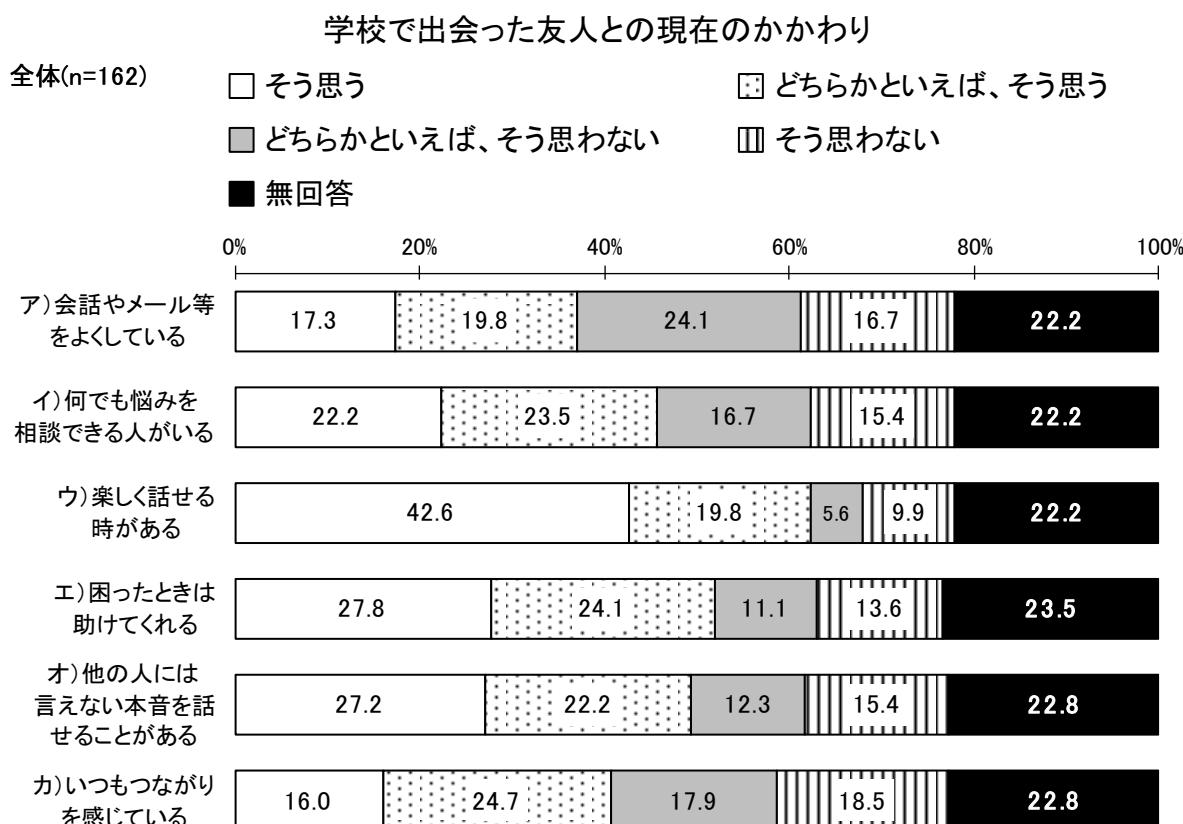
(上段: n、下段: %)

		対象者(n)	そう思う	どちらかといえば、そう思う	どちらかといえば、そう思わない	そう思わない	無回答
全体		162	56 34.6	41 25.3	22 13.6	7 4.3	36 22.2
だ 自 と 思 は う 幸 か せ	そう思う	52	32 61.5	11 21.2	2 3.8	1 1.9	6 11.5
	どちらかといえば、そう思う	68	21 30.9	26 38.2	13 19.1	4 5.9	4 5.9
	どちらかといえば、そう思わない	14	3 21.4	4 28.6	5 35.7	1 7.1	1 7.1
	そう思わない	5	0 0.0	0 0.0	2 40.0	1 20.0	2 40.0

(7) 学校で出会った友人との現在のかかわり

問16 学校で出会った友人（現在通っている学校の友人、かつての同窓生など）と、あなたの現在のかかわりは、どのようなものですか。（それぞれ1つだけ）

学校で出会った友人との現在のかかわりについて、“思う”（「そう思う」と「どちらかといえば、そう思う」の合計）の割合が最も高い項目は『ウ）楽しく話せる時がある』（62.4%）で、次いで『エ）困ったときは助けてくれる』（51.9%）、『オ）他の人には言えない本音を話せることがある』（49.4%）などの順となっています。一方、“思わない”（「どちらかといえば、そう思わない」と「そう思わない」の合計）の割合は『ア）会話やメール等をよくしている』（40.8%）が最も高く、次いで『カ）いつもつながりを感じている』（36.4%）、『イ）何でも悩みを相談できる人がいる』（32.1%）などの順となっています。



ア) 学校で出会った友人と会話やメール等をよくしているかについて、幸福度別でみると、幸福度が高い人ほど“思う”の割合が高くなっています。

学校で出会った友人との現在のかかわり／ア)会話やメール等をよくしている／幸福度別

		対象者 (n)	(上段: n、下段: %)				
			そう思う	どちらか といえ ば、そう 思う	どちらか といえ ば、そう 思わない	そう思わ ない	無回答
全体		162	28 17.3	32 19.8	39 24.1	27 16.7	36 22.2
だ 自 と 分 思 は う 幸 か せ	そう思う	52	15 28.8	10 19.2	11 21.2	10 19.2	6 11.5
	どちらかといえ ば、 そう思う	68	10 14.7	19 27.9	24 35.3	11 16.2	4 5.9
	どちらかといえ ば、 そう思わない	14	3 21.4	2 14.3	4 28.6	4 28.6	1 7.1
	そう思わない	5	0 0.0	1 20.0	0 0.0	2 40.0	2 40.0

エ) 学校で出会った友人は困ったときは助けてくれるかについて、幸福度別でみると、幸福度が高い人ほど“思う”の割合が高くなっています。

学校で出会った友人との現在のかかわり／エ)困ったときは助けてくれる／幸福度別

		対象者 (n)	(上段: n、下段: %)				
			そう思う	どちらか といえ ば、そう 思う	どちらか といえ ば、そう 思わない	そう思わ ない	無回答
全体		162	45 27.8	39 24.1	18 11.1	22 13.6	38 23.5
だ 自 と 分 思 は う 幸 か せ	そう思う	52	24 46.2	10 19.2	4 7.7	8 15.4	6 11.5
	どちらかといえ ば、 そう思う	68	20 29.4	23 33.8	9 13.2	10 14.7	6 8.8
	どちらかといえ ば、 そう思わない	14	1 7.1	5 35.7	5 35.7	2 14.3	1 7.1
	そう思わない	5	0 0.0	1 20.0	0 0.0	2 40.0	2 40.0

カ) 学校で出会った友人といつもつながりを感じているについて、生活水準別でみると、生活水準が高い人ほど“思う”の割合が高くなっています。

学校で出会った友人との現在のかかわり／カ)いつもつながりを感じている／生活水準別

		対象者 (n)	(上段: n、下段: %)				
			そう思う	どちらか といえ ば、そう 思う	どちらか といえ ば、そう 思わない	そう思わ ない	無回答
全体		162	26 16.0	40 24.7	29 17.9	30 18.5	37 22.8
生 比 活 べ水 た準 場を 合世 の間 位一 置般 と	上	2	0 0.0	2 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	中の上	21	6 28.6	5 23.8	2 9.5	4 19.0	4 19.0
	中の中	70	11 15.7	21 30.0	14 20.0	12 17.1	12 17.1
	中の下	45	8 17.8	9 20.0	10 22.2	8 17.8	10 22.2
	下	17	1 5.9	2 11.8	3 17.6	5 29.4	6 35.3

(8) 職場関係の人との現在のかかわり

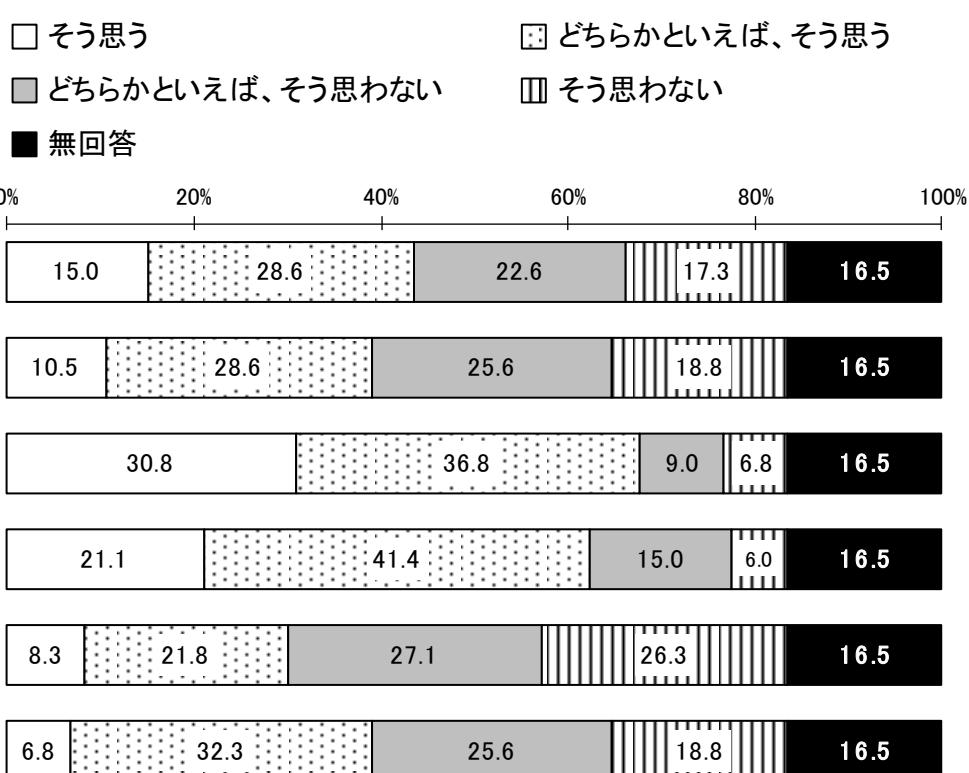
【問9で「現在、就業している」、「現在、就業しているが、休職や休業中である」、「現在は就業していないが、過去に就業経験がある」を選んだ方のみ、お答えください。】

問17 職場・アルバイト関係の人（現在及び過去の職場の同僚・上司・部下、その他仕事の関係で知り合った人など）と、あなたの現在のかかわりは、どのようなものですか。
(それぞれ1つだけ)

職場関係の人との現在のかかわりについて、“思う”（「そう思う」と「どちらかといえば、そう思う」の合計）の割合が最も高い項目は『ウ) 楽しく話せる時がある』（67.6%）が最も高く、次いで『エ) 困ったときは助けてくれる』（62.5%）、『ア) 会話やメール等をよくしている』（43.6%）などの順となっています。一方、“思わない”（「どちらかといえば、そう思わない」と「そう思わない」の合計）の割合は『オ) 他の人には言えない本音を話せることがある』（53.4%）が最も高く、次いで『イ) 何でも悩みを相談できる人がいる』『カ) いつもつながりを感じている』（同率44.4%）、『ア) 会話やメール等をよくしている』（39.9%）などの順となっています。

職場関係の人との現在のかかわり

全体(n=133)



イ) 職場関係の人に何でも悩みを相談できる人がいるかについて、幸福度別でみると、幸福度が高い人ほど“思う”の割合が高くなっています。

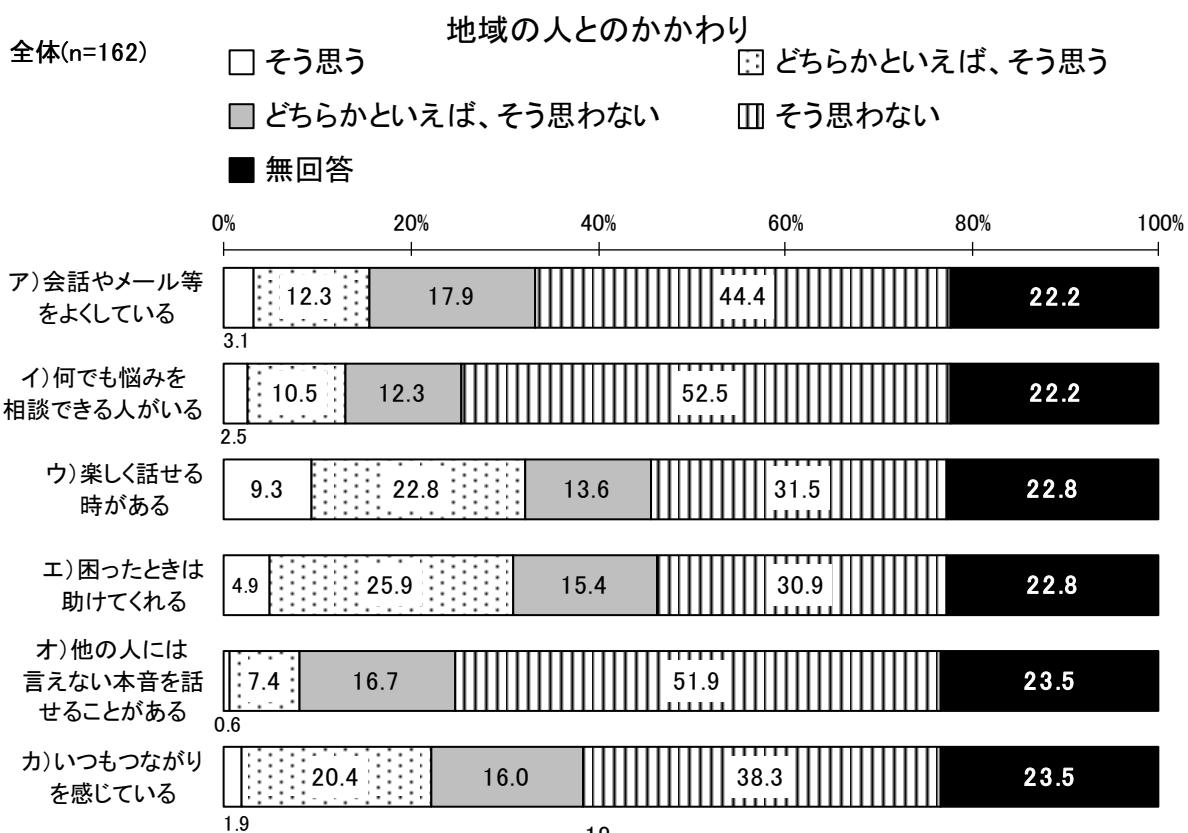
職場関係の人との現在のかかわり／イ)何でも悩みを相談できる人がいる／幸福度別

		対象者 (n)	そう思う	どちらか といえば、そう 思う	どちらか といえば、そう 思わない	そう思わ ない	無回答
			133	14 10.5	38 28.6	34 25.6	25 18.8
だ 自 と 分 思 は う 幸 か せ	そう思う	42	7 16.7	15 35.7	8 19.0	8 19.0	4 9.5
	どちらかといえば、 そう思う	63	5 7.9	23 36.5	19 30.2	13 20.6	3 4.8
	どちらかといえば、 そう思わない	11	2 18.2	0 0.0	5 45.5	3 27.3	1 9.1
	そう思わない	4	0 0.0	0 0.0	2 50.0	1 25.0	1 25.0

(9) 地域の人とのかかわり

問18 地域の人（近所の人、町内会などの知人、消防団などの地域活動での知人、塾や習い事での知人、参加しているNPO法人など）と、あなたのかかわりは、どのようなものですか。（それぞれ1つだけ）

地域の人とのかかわりについて、“思う”（「そう思う」と「どちらかといえば、そう思う」の合計）の割合が最も高い項目は『ウ) 楽しく話せる時がある』（32.1%）で、次いで『エ) 困ったときは助けてくれる』（30.8%）、『カ) いつもつながりを感じている』（22.3%）などの順となっています。一方、“思わない”（「どちらかといえば、そう思わない」と「そう思わない」の合計）の割合は『オ) 他の人には言えない本音を話せることがある』（68.6%）が最も高く、次いで『イ) 何でも悩みを相談できる人がいる』（64.8%）、『ア) 会話やメール等をよくしている』（62.3%）などの順となっています。



エ) 地域の人とのかかわりで困ったときは助けてくれるかについて、性別でみると、『男性』は“思う”の割合が35.4%で、女性（26.6%）に比べて高くなっています。幸福度別でみると、幸福度が高い人ほど“思う”の割合が高くなっています。

地域の人とのかかわり／エ) 困ったときは助けてくれる／性別、幸福度別

(上段: n、下段: %)

		対象者 (n)	そう思う	どちらか といえ ば、そう 思う	どちらか といえ ば、そう 思わない	そう思わ ない	無回答
全体			162	8 4.9	42 25.9	25 15.4	50 30.9
性別	男性	65	4 6.2	19 29.2	12 18.5	18 27.7	12 18.5
	女性	94	4 4.3	21 22.3	13 13.8	32 34.0	24 25.5
	その他	2	0 0.0	2 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
だ自 と分 思は う幸 かせ	そう思う	52	4 7.7	18 34.6	9 17.3	15 28.8	6 11.5
	どちらかといえば、 そう思う	68	4 5.9	18 26.5	14 20.6	28 41.2	4 5.9
	どちらかといえば、 そう思わない	14	0 0.0	4 28.6	2 14.3	6 42.9	2 14.3
	そう思わない	5	0 0.0	2 40.0	0 0.0	1 20.0	2 40.0

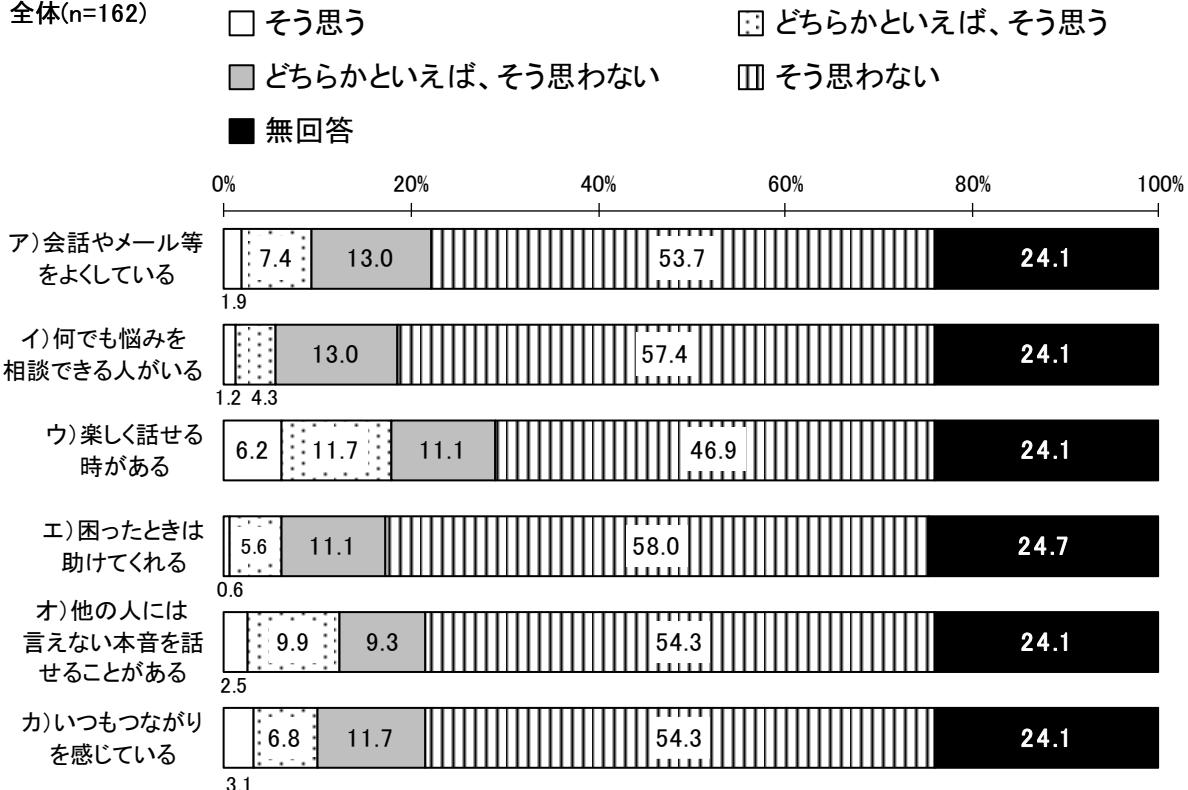
(10) インターネット上における人とのかかわり

問19 インターネット上における人やグループ（実際には会ったことがなかったり、または、何回か会ったことはあっても、基本的にはインターネット中心の付き合いの人やグループ）と、あなたのかかわりは、どのようなものですか。（それぞれ1つだけ）

インターネット上における人とのかかわりについて、“思う”（「そう思う」と「どちらかといえば、そう思う」の合計）の割合が最も高い項目は『ウ) 楽しく話せる時がある』（17.9%）で、次いで『オ) 他の人には言えない本音を話せることがある』（12.4%）、『カ) いつもつながりを感じている』（9.9%）などの順となっています。一方、“思わない”（「どちらかといえば、そう思わない」と「そう思わない」の合計）の割合は『イ) 何でも悩みを相談できる人がいる』（70.4%）が最も高く、次いで『エ) 困ったときは助けてくれる』（69.1%）、『ア) 会話やメール等をよくしている』（66.7%）などの順となっています。

インターネット上における人とのかかわり

全体(n=162)



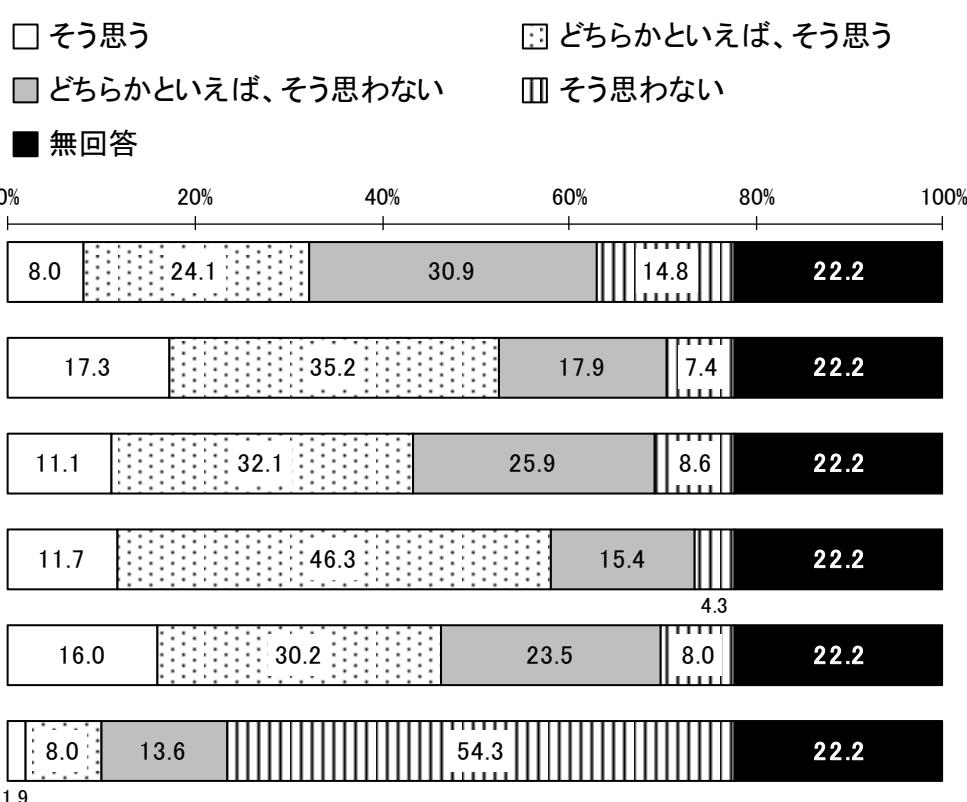
(11) 他人との付き合い

問20 あなたは、他の人と付き合う時、次のようなことがどのくらいあてはまりますか。
(それぞれ1つだけ)

他人との付き合いについて、“思う”（「そう思う」と「どちらかといえば、そう思う」の合計）の割合が最も高い項目は『エ）その場に合った行動がとれる』（58.0%）で、次いで『イ）表情やしぐさで相手の思っていることがわかる』（52.5%）、『オ）表情が豊かである』（46.2%）などの順となっています。一方、“思わない”（「どちらかといえば、そう思わない」と「そう思わない」の合計）の割合は『カ）人にぶつかってもあやまらないことがある』（67.9%）、『ア）誰とでもすぐ仲良くなれる』（45.7%）、『ウ）親しい人に頼まれてもやりたくないことは断る』（34.5%）などの順となっています。

他人との付き合い

全体(n=162)

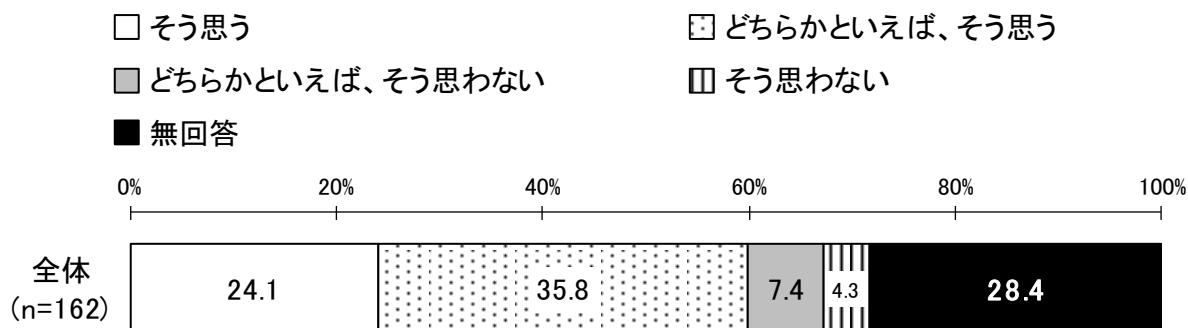


(12) 社会のために役立つことをしたいか

問21 あなたは、「社会のために役立つことをしたい」と思いますか。（1つだけ）

社会のために役立つことをしたいかについては、全体では「どちらかといえば、そう思う」の割合が35.8%で最も高く、次いで「そう思う」（24.1%）が続き、これらを合わせた“思う”の割合が59.9%となっています。一方、“思わない”（「どちらかといえば、そう思わない」7.4%と「そう思わない」4.3%の合計）の割合は11.7%となっています。

社会のために役立つことをしたいか

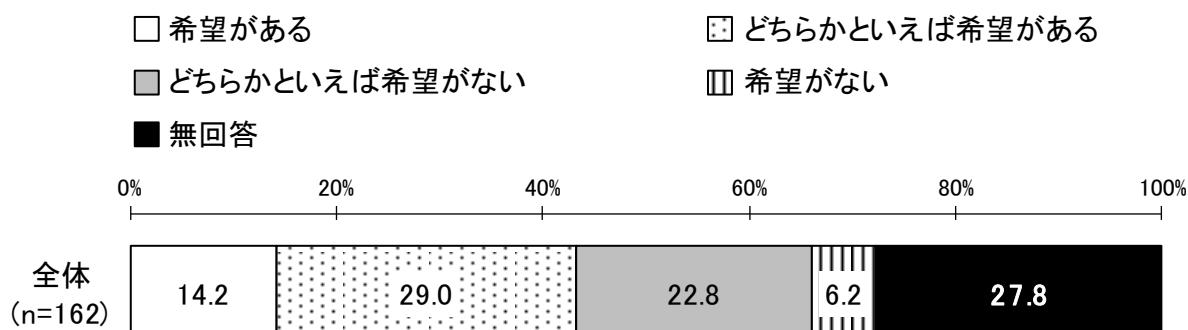


(13) 将来に明るい希望を持っているか

問22 あなたは、自分の将来について明るい希望を持っていますか。あてはまるものを1つ選んでください。（1つだけ）

将来に明るい希望を持っているかについては、全体では「どちらかといえば希望がある」の割合が29.0%で最も高く、これに「希望がある」（14.2%）を合わせた“希望がある”の割合は43.2%となっています。一方、“希望がない”（「どちらかといえば希望がない」22.8%と「希望がない」6.2%の合計）の割合は29.0%となっています。

将来に明るい希望を持っているか

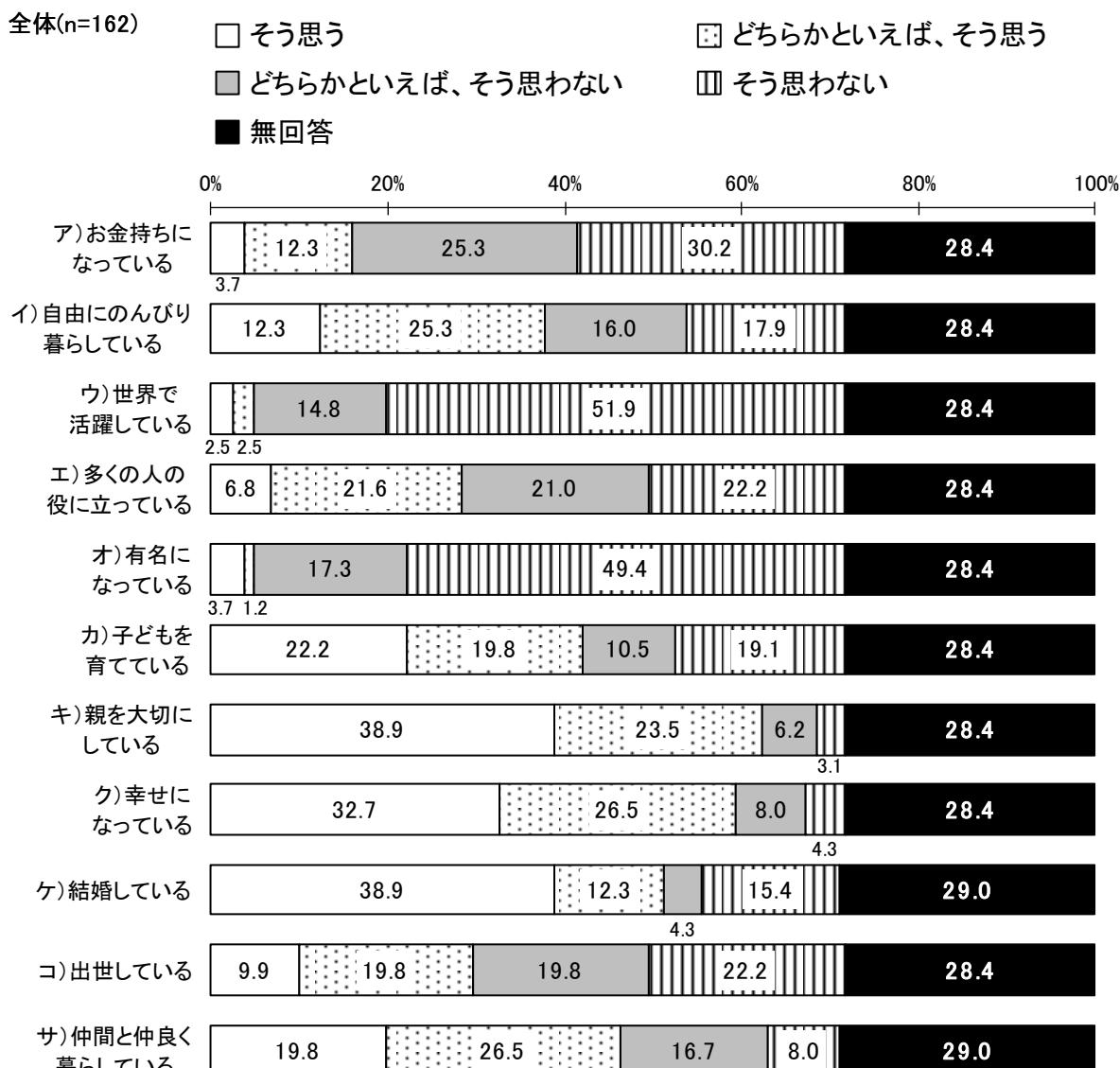


(14) 20年後の自分

問23 あなたは20年後、どのようにになっていると思いますか。（それぞれ1つだけ）

20年後の自分について、“そう思う”（「そう思う」と「どちらかといえば、そう思う」の合計）の割合が最も高い項目は『キ) 親を大切にしている』（62.4%）で、次いで『ク) 幸せになっている』（59.2%）、『ケ) 結婚している』（51.2%）などの順となっています。一方、“そう思わない”（「どちらかといえば、そう思わない」と「そう思わない」の合計）の割合は『ウ) 世界で活躍している』『オ) 有名になっている』（同率66.7%）が最も高く、次いで『ア) お金持ちになっている』（55.5%）、『エ) 多くの人の役に立っている』（43.2%）などの順となっています。

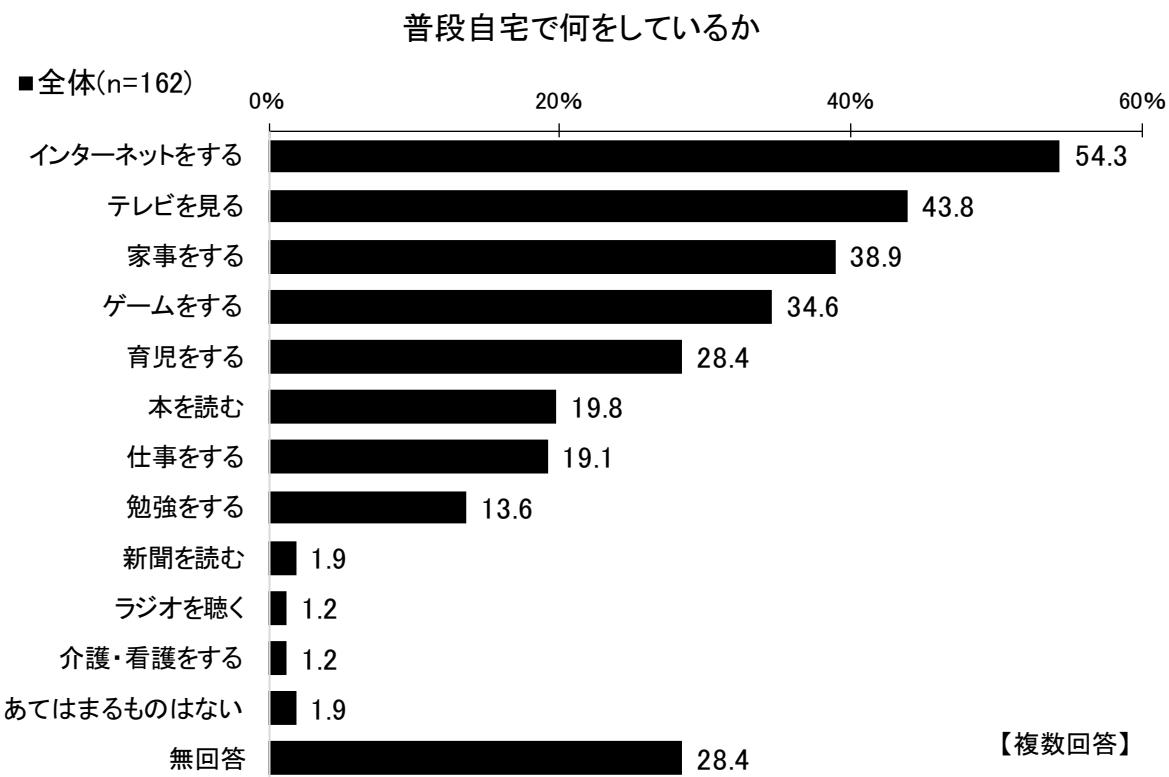
20年後の自分



(15) 普段自宅で何をしているか

問24 普段ご自宅（暮らしている場所）にいるときは、どんなことに時間を使っていますか。よくしていることをすべて選んでください。（いくつでも）

普段自宅で何をしているかについては、全体では「インターネットをする」の割合が54.3%で最も高く、次いで「テレビを見る」（43.8%）、「家事をする」（38.9%）などの順となっています。

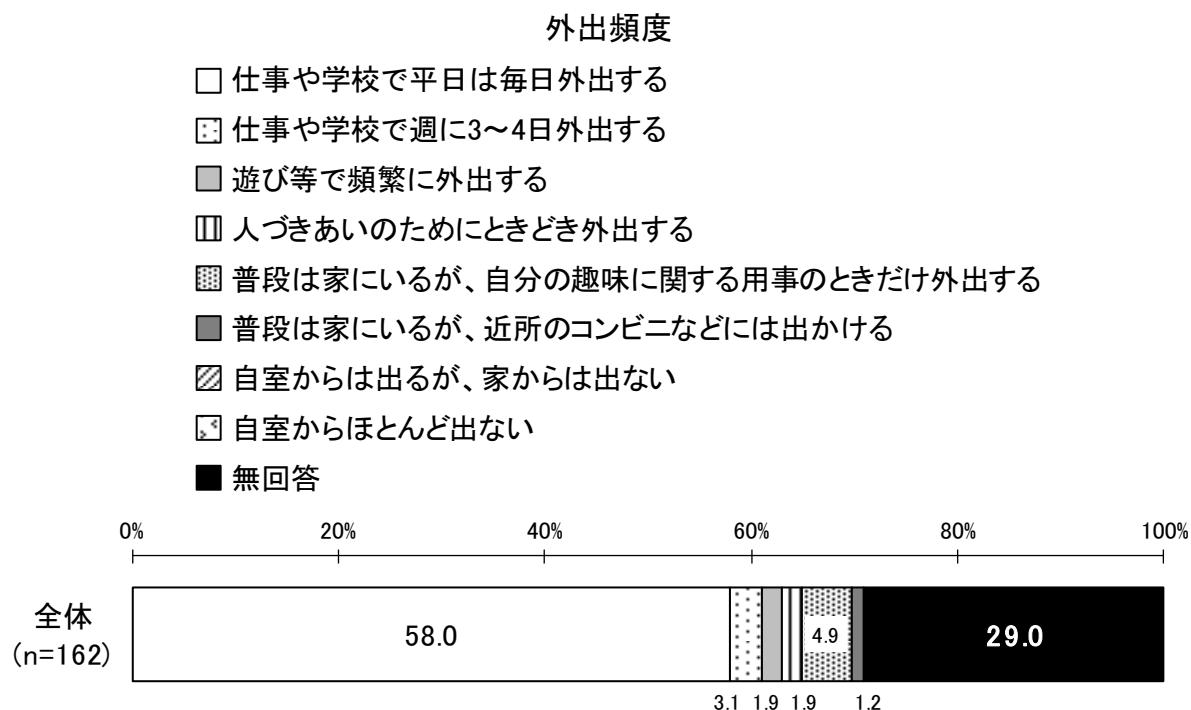


3 外出状況について

(1) 外出頻度

問25 あなたは普段どのくらい外出しますか。現在のことについてお答えください。 (1つだけ)

外出頻度については、全体では「仕事や学校で平日は毎日外出する」の割合が58.0%で最も高く、次いで「普段は家にいるが、自分の趣味に関する用事のときだけ外出する」(4.9%)、「仕事や学校で週に3~4日外出する」(3.1%)などの順となっています。



(2) 外出状況が現在の状態となってどのくらい経つか

【問25で「普段は家にいるが、自分の趣味に関する用事のときだけ外出する」「普段は家にいるが、近所のコンビニなどには出かける」「自室からは出るが、家からは出ない」「自室からほとんど出ない」を選んだ方のみ、お答えください。】

問25-1 あなたの外出状況が現在の状態となって、どのくらい経ちますか。（1つだけ）

外出状況が現在の状態となってどのくらい経つかについては、全体では「3か月未満」が3人、「2年～3年未満」「3年～5年未満」が2人ずつ、「3か月～6か月未満」「6か月～1年未満」「10年～15年未満」「10年～15年未満」「10年～15年未満」が1人ずつとなっています。

外出状況が現在の状態となってどのくらい経つか

項目	回答数 (n)
3か月未満	3
3か月～6か月未満	1
6か月～1年未満	1
1年～2年未満	0
2年～3年未満	2
3年～5年未満	2
5年～7年未満	0
7年～10年未満	0
10年～15年未満	1
15年～20年未満	0
20年～25年未満	0
25年～30年未満	0
30年以上	0
無回答	0
非該当	152
全体（非該当除く）	10

(3) 外出状況が現在の状態になったのは何歳の頃か

【問25-1で「3か月未満」「3か月～6か月未満」以外を選んだ方のみ、お答えください。】

問25-2 あなたの外出状況が現在の状態になったのは、何歳の頃ですか。（1つだけ）

外出状況が現在の状態になったのは何歳の頃かについては、全体では「25歳～29歳」が4人、「30歳～34歳」が1人となっています。

外出状況が現在の状態になったのは何歳の頃か

項目	回答数 (n)
14歳以下	0
14歳～19歳	0
20歳～24歳	0
25歳～29歳	4
30歳～34歳	1
35歳～39歳	0
無回答	1
非該当	156
全体（非該当除く）	6

(4) 外出状況が現在の状態になった理由

【問25-1で「3か月未満」「3か月～6か月未満」以外を選んだ方のみ、お答えください。】

問25-3 あなたの外出状況が現在の状態になった主な理由は何ですか。（いくつでも）

外出状況が現在の状態になった理由については、全体では「その他」が3人、「特に理由はない」が2人、「妊娠したこと」「退職したこと」「新型コロナウイルス感染症が流行したこと」が1人ずつとなっています。

外出状況が現在の状態になった理由

項目	回答数(n)
学校になじめなかつたこと	0
小学校時代の不登校	0
中学校時代の不登校	0
高校時代の不登校	0
大学（専門学校、短期大学等を含む）時代の不登校	0
受験に失敗したこと（高校・大学等）	0
就職活動がうまくいかなかつたこと	0
職場になじめなかつたこと	0
人間関係がうまくいかなかつたこと	0
病気	0
妊娠したこと	1
退職したこと	1
介護・看護を担うことになったこと	0
新型コロナウイルス感染症が流行したこと	1
その他	3
特に理由はない	2
わからない	0
無回答	1
非該当	156
全体（非該当除く）	6

《その他の主な記述内容》

- ・リモートワークメインになった（1件）

(5) 外出状況が現在の状態になった最も大きな理由

【問25-3で「特に理由はない」「わからない」以外を選んだ方のみ、お答えください。】

問25-4 あなたの外出状況が現在の状態になった最も大きな理由は何ですか。問25-3で選んだ選択肢の中から、番号を1つだけ選んでください。

外出状況が現在の状態になった最も大きな理由については、全体では「新型コロナウイルス感染症が流行したこと」「その他」が1人ずつとなっています。

外出状況が現在の状態になった最も大きな理由

項目	回答数(n)
学校になじめなかったこと	0
小学校時代の不登校	0
中学校時代の不登校	0
高校時代の不登校	0
大学（専門学校、短期大学等を含む）時代の不登校	0
受験に失敗したこと（高校・大学等）	0
就職活動がうまくいかなかったこと	0
職場になじめなかったこと	0
人間関係がうまくいかなかったこと	0
病気	0
妊娠したこと	0
退職したこと	0
介護・看護を担うことになったこと	0
新型コロナウイルス感染症が流行したこと	1
その他	1
無回答	1
非該当	159
全体（非該当除く）	3

(6) 過去6か月間で家族以外の人と会話をしたか

【問25-1で「3か月未満」「3か月～6か月未満」以外を選んだ方のみ、お答えください。】

問25-5 最近6か月間に、家族以外の人と会話をしましたか。（1つだけ）

過去6か月間で家族以外の人と会話をしたかについては、全体では「ときどき会話をした」が3人、「よく会話をした」が2人、「ほとんど会話をしなかった」が1人となっています。

過去6か月間で家族以外の人と会話をしたか

項目	回答数(n)
よく会話をした	2
ときどき会話をした	3
ほとんど会話をしなかった	1
まったく会話をしなかった	0
無回答	0
非該当	156
全体（非該当除く）	6

4 日常生活について

(1) 生活を円滑に送ることができなかつた経験があるか

問26 あなたは今までに、社会生活や日常生活を円滑に送ることができなかつた経験がありまし
たか。または、現在、社会生活や日常生活を円滑に送れていない状況がありますか。最もあてはまるものを選んでください。（1つだけ）

生活を円滑に送ることができなかつた経験があるかについては、全体では「どちらかといえば、なかつた（ない）」の割合が19.1%で最も高く、これに「なかつた（ない）」（14.2%）を合わせた“経験がない”の割合が33.3%となっています。一方、“経験がある”（「今までに経験があつた（または、現在ある）」16.0%と「どちらかといえば、あつた（ある）」16.0%の合計）の割合が32.0%となっています。

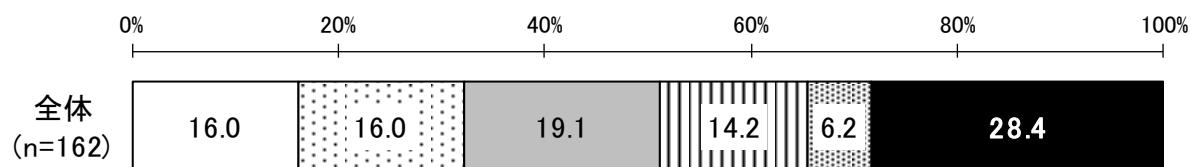
生活を円滑に送ることができなかつた経験があるか

今までに経験があつた（または、現在ある） どちらかといえば、あつた（ある）

どちらかといえば、なかつた（ない） 中なかつた（ない）

わからない、答えられない

無回答



(2) 生活を円滑に送ることができなかつた原因

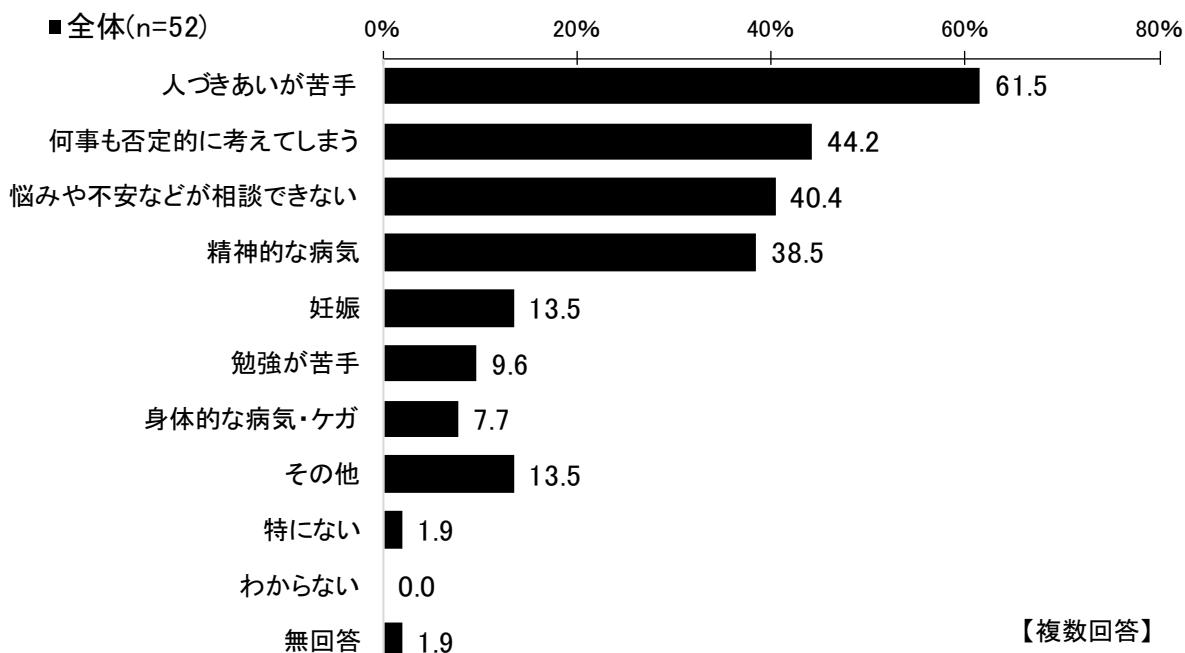
【問26で「今までに経験があった（または、現在ある）」又は「どちらかといえば、あった（ある）」を選んだ方のみ、お答えください。】

問26-1 そうした問題を経験した、又は現在経験している主な原因は何ですか。以下の(1)～(4)のそれぞれにお答えください。（それぞれいくつでも）

①自分自身について

生活を円滑に送ることができなかつた主な原因として自分自身については、全体では「人づきあいが苦手」の割合が61.5%で最も高く、次いで「何事も否定的に考えてしまう」(44.2%)、「悩みや不安などが相談できない」(40.4%)などの順となっています。

生活を円滑に送ることができなかつた原因／自分自身について



«その他の主な記述内容»

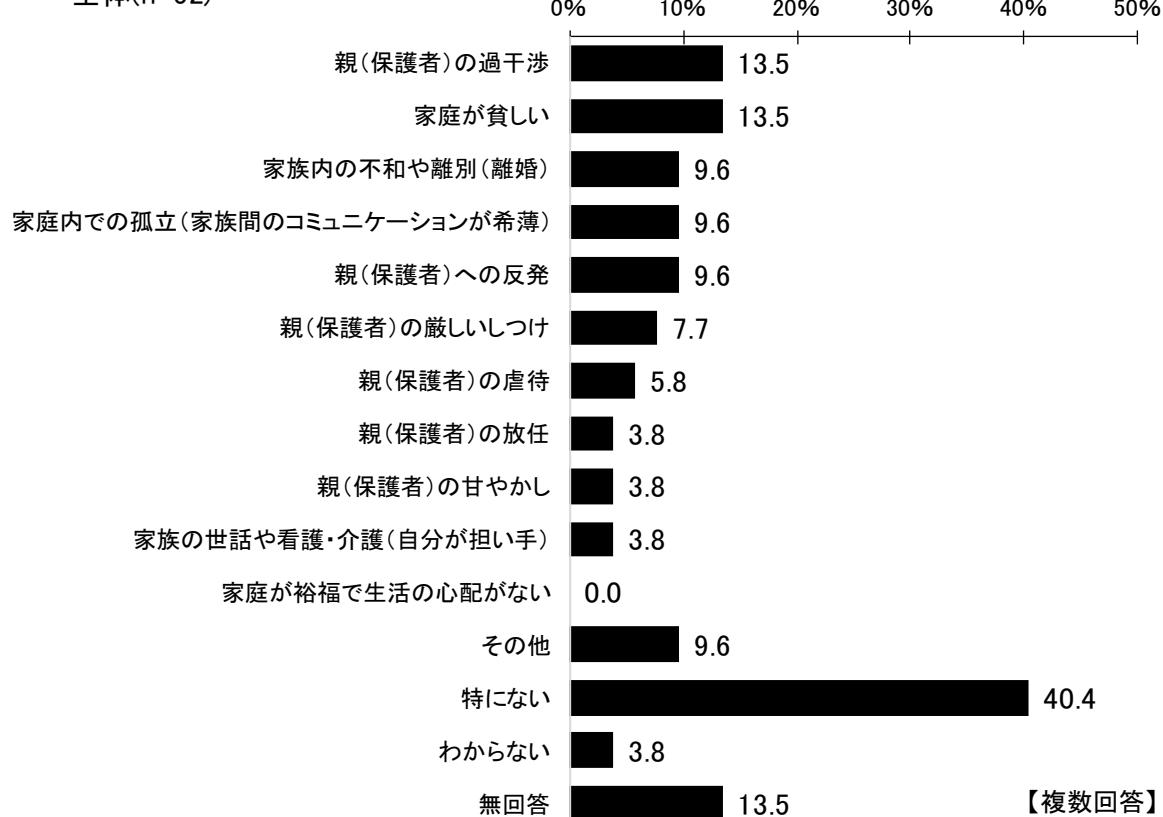
- ・いじめ (2件)
- ・仕事に就きたくても人と接するのが怖い (1件)
- ・死にたいから (1件)
- ・産後 (1件)

②家族・家庭について

生活を円滑に送ることができなかつた主な原因として家族・家庭については、全体では「親（保護者）の過干渉」「家庭が貧しい」の割合が同率13.5%で最も高く、次いで「家族内の不和や離別（離婚）」「家庭内での孤立（家族間のコミュニケーションが希薄）」「親（保護者）への反発」（同率9.6%）などの順となっています。

生活を円滑に送ることができなかつた原因／家族・家庭について

■全体(n=52)



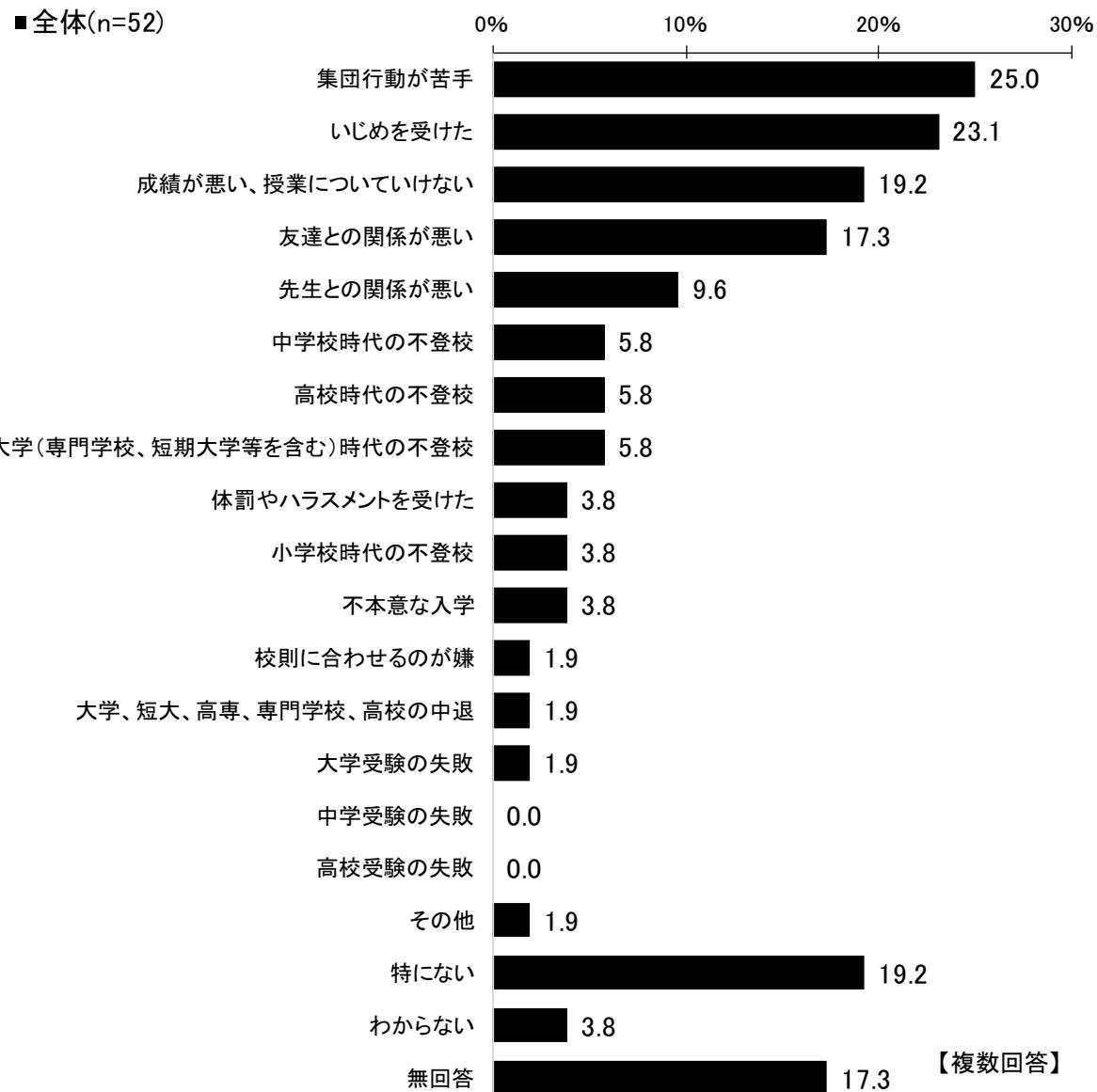
«その他の主な記述内容»

- ・上手く会話ができない。いつも自分が不機嫌になってしまう（1件）
- ・祖母の認知症介護による祖母と母の親子喧嘩（1件）

③学校について

生活を円滑に送ることができなかつた主な原因として学校については、全体では「集団行動が苦手」の割合が25.0%で最も高く、次いで「いじめを受けた」(23.1%)、「成績が悪い、授業についていけない」(19.2%)などの順となっています。

生活を円滑に送ることができなかつた原因／学校について



«その他の主な記述内容»

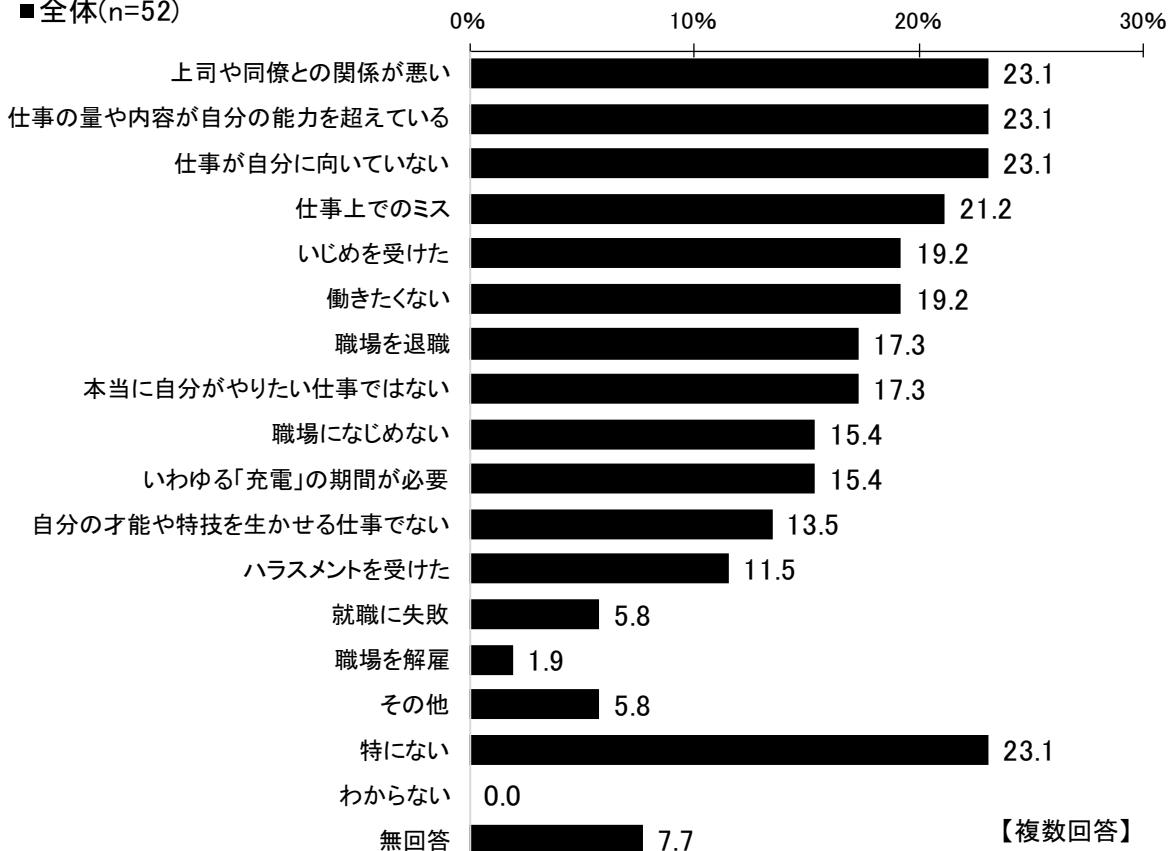
- ・大学時の留年・転学、教授からのモラハラ (1件)

④仕事・職場について

生活を円滑に送ることができなかつた主な原因として仕事・職場については、全体では「上司や同僚との関係が悪い」「仕事の量や内容が自分の能力を超えている」「仕事が自分に向いていない」が同率23.1%で最も高く、次いで「仕事上でのミス」(21.2%)、「いじめを受けた」「働きたくない」(同率19.2%)などの順となっています。

生活を円滑に送ることができなかつた原因／仕事・職場について

■全体(n=52)



«その他の主な記述内容»

- ・マタハラではないのかと思うことが妊娠中にあり、それから転職を考えて資格もとったりしたが、今金銭的に困っているのに、今の生活が維持できなくなる不安から行動できずいる（1件）
- ・給料が低く日常生活がきつい。食事をとらない日も多々あった（1件）

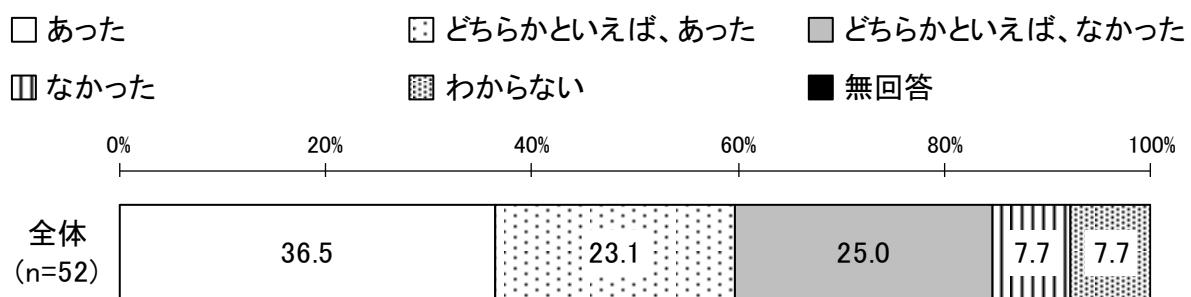
(3) 生活を円滑に送ることができなかつた状態が改善した経験

【問26で「今までに経験があった（または、現在ある）」又は「どちらかといえば、あった（あつた）」を選んだ方のみ、お答えください。】

問26-2 あなたは今までに、社会生活や日常生活を円滑に送ることができなかつた状態が改善した経験がありましたか。最もあてはまるものを選んでください。（1つだけ）

生活を円滑に送ることができなかつた状態が改善した経験については、全体では「あつた」の割合が36.5%で最も高く、これに「どちらかといえば、あつた」（23.1%）を合わせた“改善した経験がある”の割合は59.6%となっています。一方、“改善した経験はない”（「どちらかといえば、なかつた」25.0%と「なかつた」7.7%の合計）の割合は32.7%となっています。

生活を円滑に送ることができなかつた状態が改善した経験

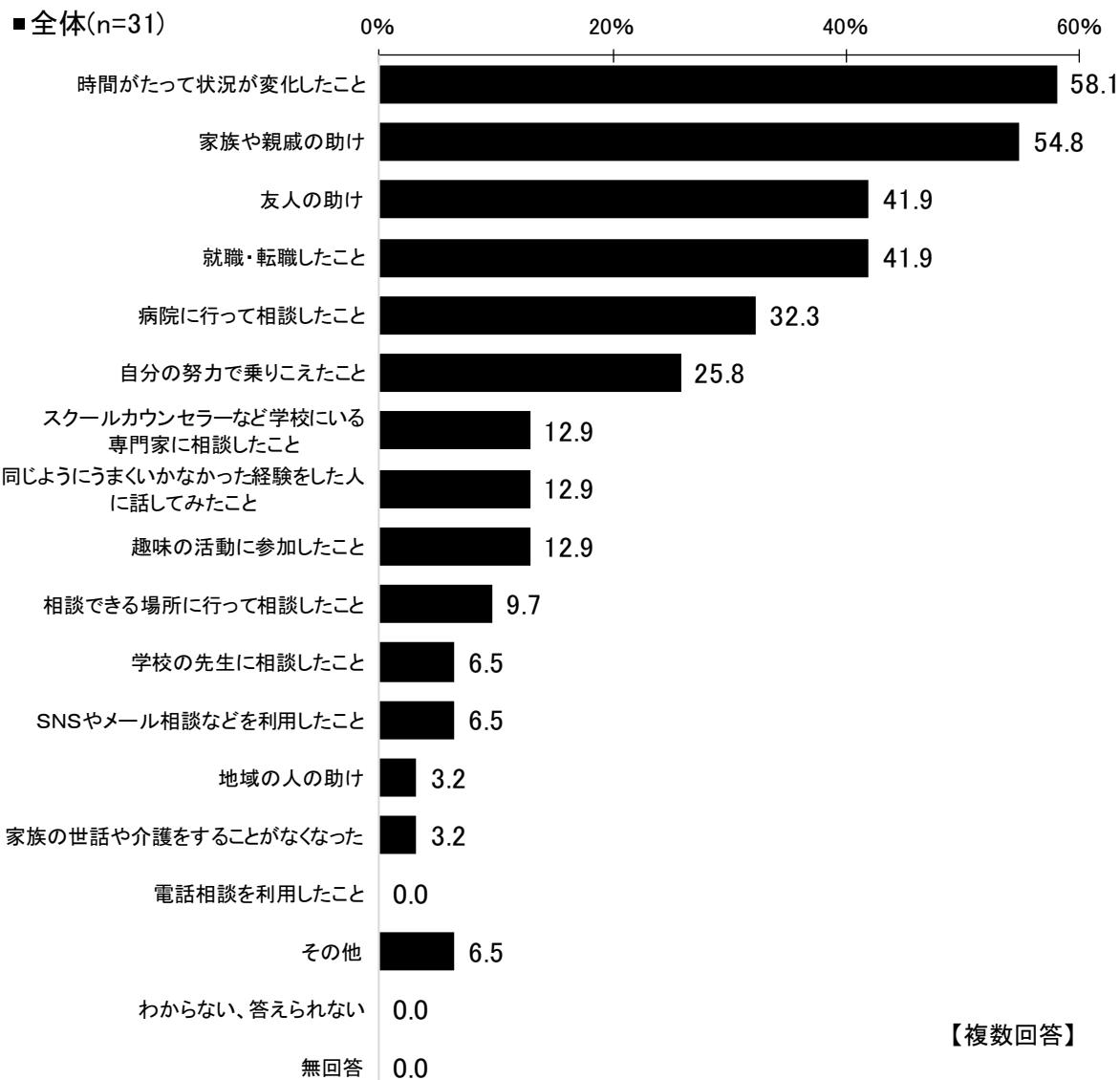


(4) 状態が改善したきっかけや役に立ったこと

【問26-2で「あった」又は「どちらかといえば、あった」を選んだ方のみ、お答えください。】
問26-3 状態が改善したきっかけや改善に役立ったことは何だと思いますか。（いくつでも）

状態が改善したきっかけや役に立ったことについては、全体では「時間がたって状況が変化したこと」の割合が58.1%で最も高く、次いで「家族や親戚の助け」（54.8%）、「友人の助け」 「就職・転職したこと」（同率41.9%）などの順となっています。

状態が改善したきっかけや役に立ったこと



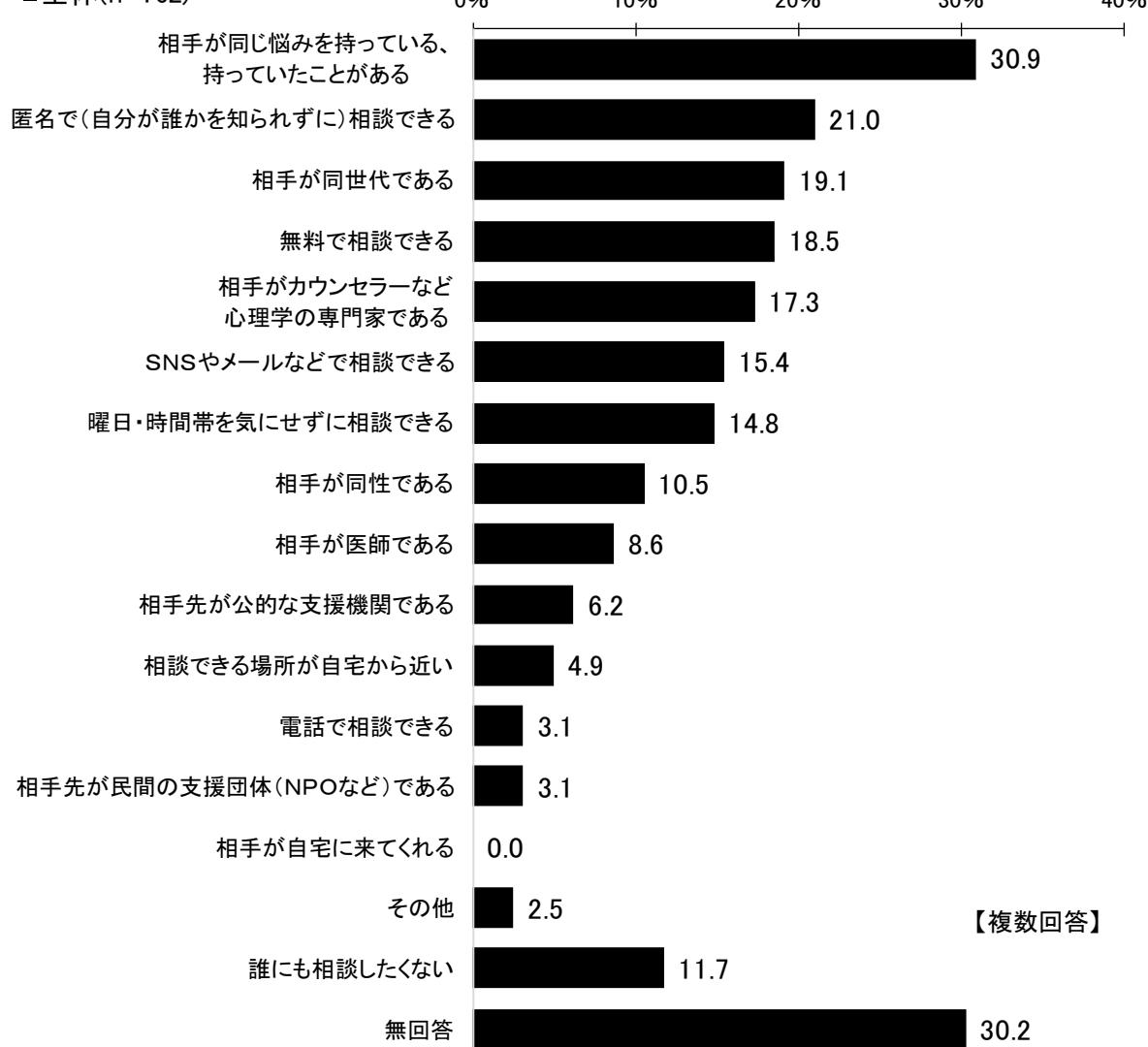
(5) 生活を円滑に送ることができない状態になったときに相談したい相手

問27 あなたが、社会生活や日常生活を円滑に送ることができない状態となったときに、家族や知り合い以外に相談するとすれば、どのような人や場所なら、相談したいと思いますか。（いくつでも）

生活を円滑に送ることができない状態になったときに相談したい相手については、全体では「相手が同じ悩みを持っている、持っていたことがある」の割合が30.9%で最も高く、次いで「匿名で（自分が誰かを知られずに）相談できる」（21.0%）、「相手が同世代である」（19.1%）などの順となっています。

生活を円滑に送ることができない状態になったときに相談したい相手

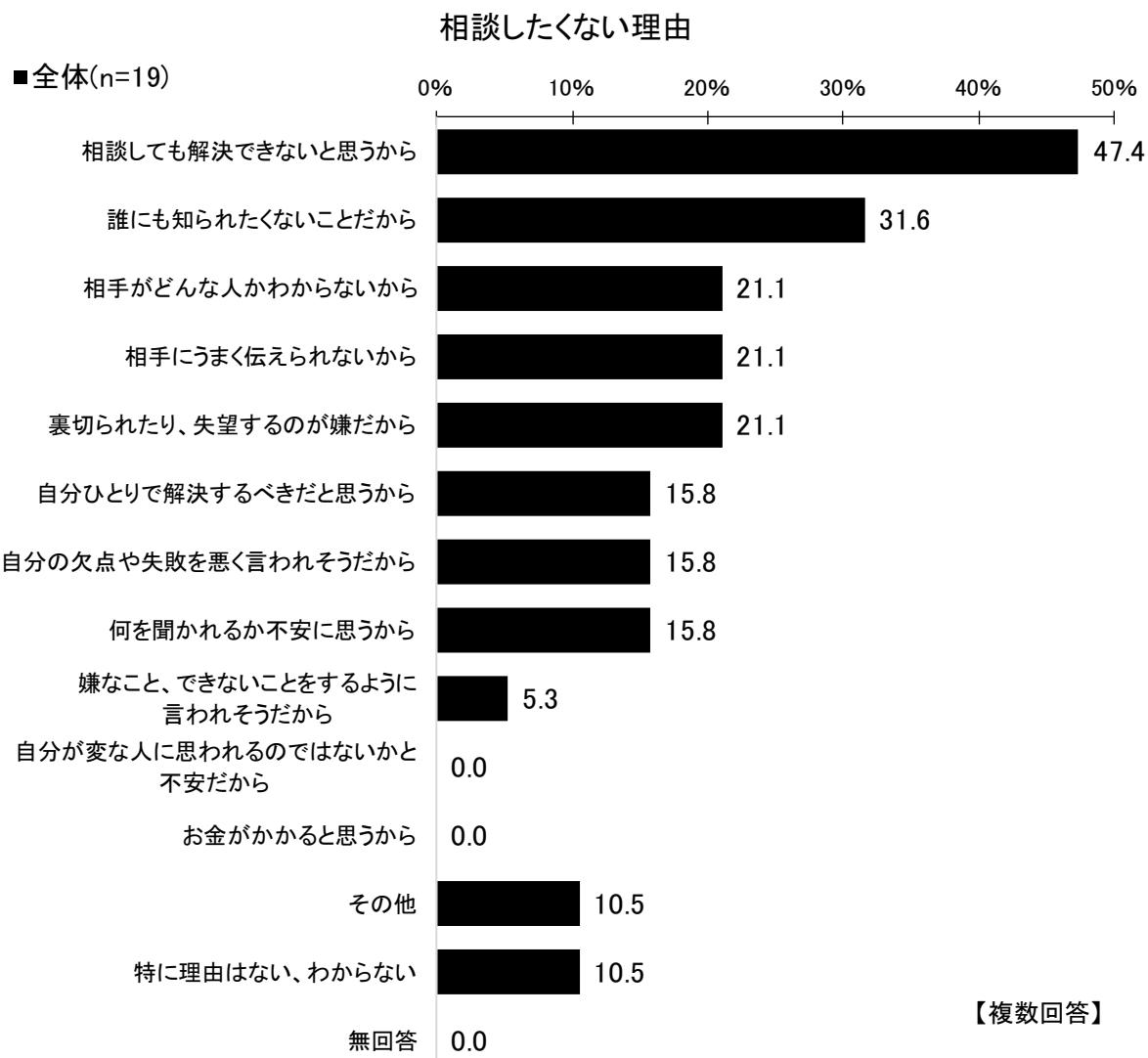
■全体(n=162)



(6) 相談したくない理由

【問27で「誰にも相談したくない」を選んだ方のみ、お答えください。】
問27-1 相談したくないと思う理由は何ですか。（いくつでも）

相談したくない理由については、全体では「相談しても解決できないと思うから」の割合が47.4%で最も高く、次いで「誰にも知られたくないことだから」（31.6%）、「相手がどんな人かわからないから」「相手にうまく伝えられないから」「裏切られたり、失望するのが嫌だから」（同率21.1%）などの順となっています。



«その他の主な記述内容»

- ・相談すること自体が面倒（1件）
- ・どこの誰に聞けばいいのかわからない（1件）

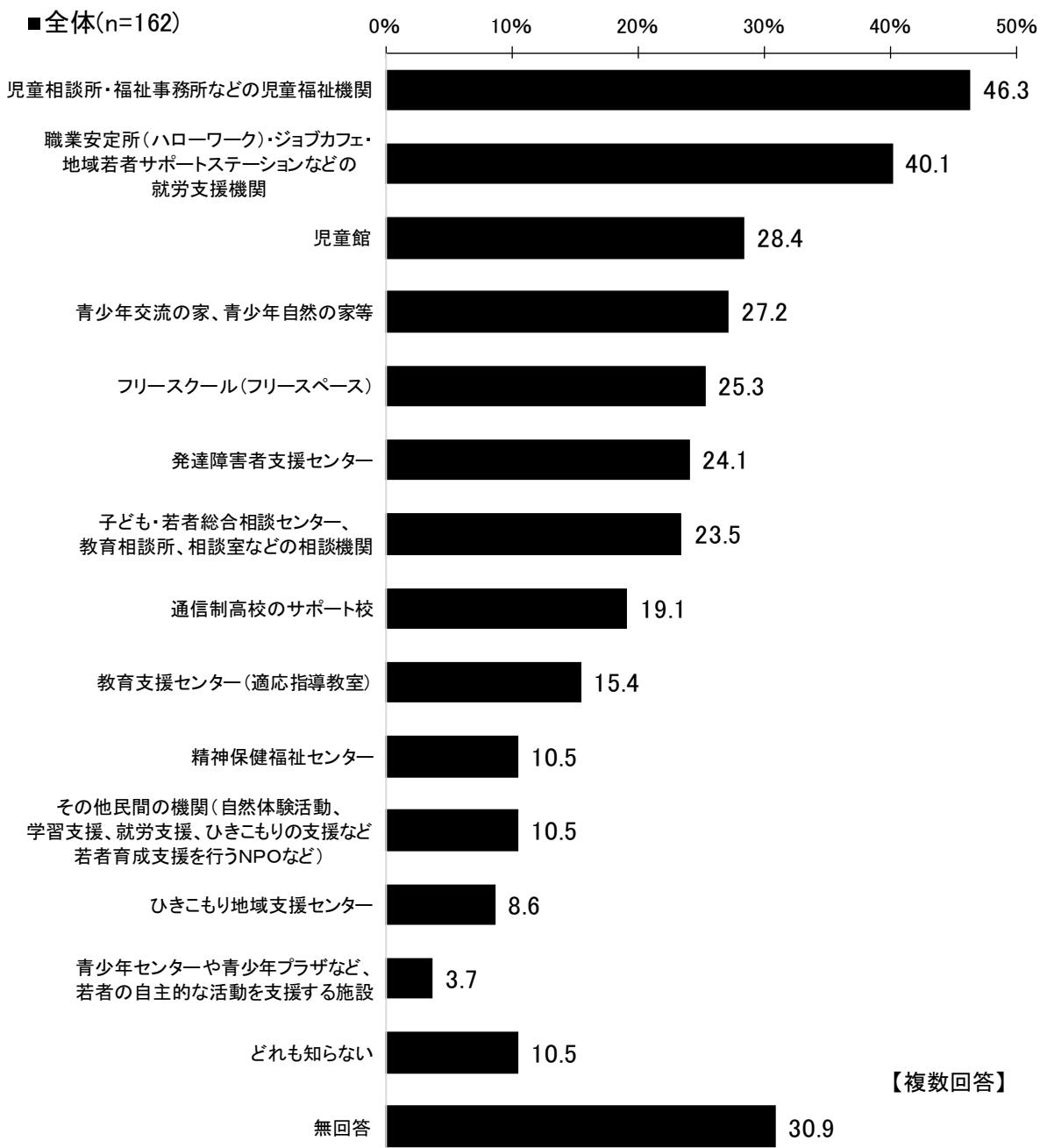
5 子ども・若者を対象とした育成支援機関について

(1) 子ども・若者を対象とした育成支援機関の認知

問28 あなたは、子供・若者を対象とした育成支援機関等を知っていますか。知っている育成支援機関等をすべて選んでください。(いくつでも)

子ども・若者を対象とした育成支援機関の認知については、全体では「児童相談所・福祉事務所などの児童福祉機関」の割合が46.3%で最も高く、次いで「職業安定所（ハローワーク）・ジョブカフェ・地域若者サポートステーションなどの就労支援機関」（40.1%）、「児童館」（28.4%）などの順となっています。

子ども・若者を対象とした育成支援機関の認知

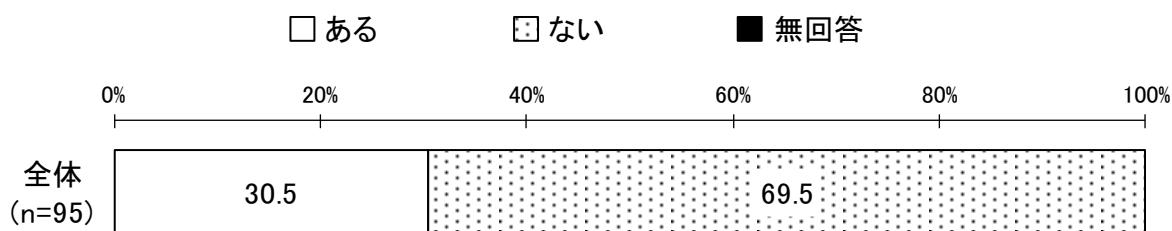


(2) 子ども・若者を対象とした育成支援機関等を利用したことはあるか

【問28で「どれも知らない」以外を選んだ方のみ、お答えください。】

子ども・若者を対象とした育成支援機関等を利用したことはあるかについては、全体では「ない」の割合が69.5%で、約7割を占めています。一方、「ある」の割合は30.5%となっています。

子ども・若者を対象とした育成支援機関等を利用したことはあるか

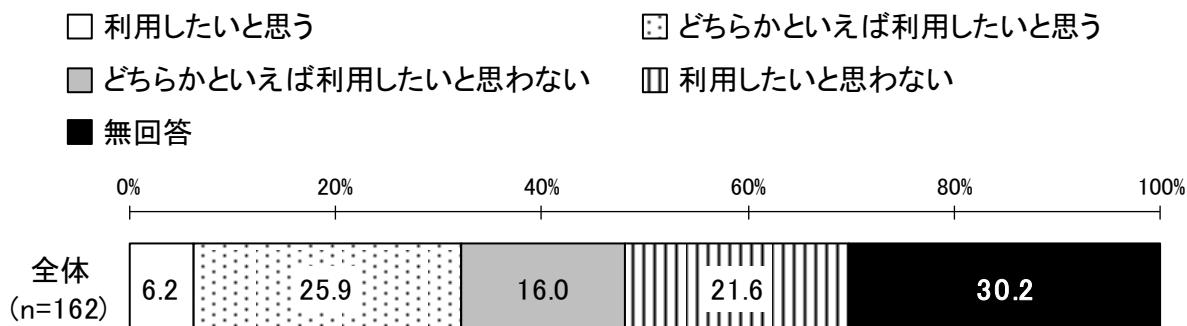


(3) 子ども・若者を対象とした育成支援機関等を利用したいか

問29 これらの機関について利用したいと思いますか。 (1つだけ)

子ども・若者を対象とした育成支援機関等を利用したいかについては、全体では「どちらかといえば利用したいと思う」の割合が25.9%で最も高く、これに「利用したいと思う」(6.2%)を合わせた“利用したい”の割合は32.1%となっています。一方、“利用したくない”（「どちらかといえば利用したいと思わない」16.0%と「利用したいと思わない」21.6%の合計）の割合は37.6%となっています。

子ども・若者を対象とした育成支援機関等を利用したいか



6 こどもの権利について

(1) 「児童の権利条約」の認知

問30 「児童の権利条約」を知っていますか。（1つだけ）

【児童の権利条約について】

児童（18歳未満の子ども）の基本的人権を国際的に保障するために定められた条約です。

児童の権利条約の4つの原則

- 差別の禁止（子どもはどんな理由でも差別されず、権利が保障されること）
- 子どもの最善の利益（子どもにとって最もよいことは何かを第一に考えること）
- 生命・生存及び発達に対する権利（命を守られ成長できること）
- 子どもの意見の尊重（子どもが意味のある参加ができること）

この4つの原則は、日本の子どもに関する基本的な法律である「こども基本法」にも取り入れられています。

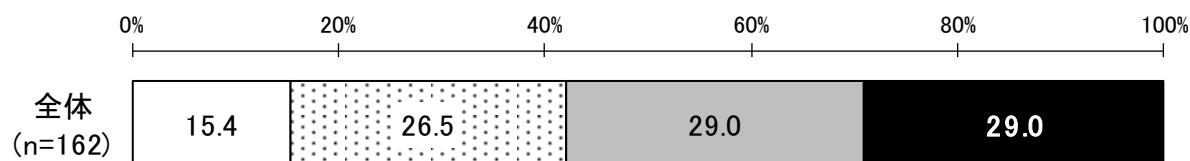
「児童の権利条約」の認知については、全体では「知らない」の割合が29.0%で最も高く、次いで「聞いたことはあるが、内容は知らない」（26.5%）、「聞いたことがあり、内容も知っている」（15.4%）の順となっています。

「児童の権利条約」の認知

聞いたことがあり、内容も知っている 聞いたことはあるが、内容は知らない

知らない

無回答



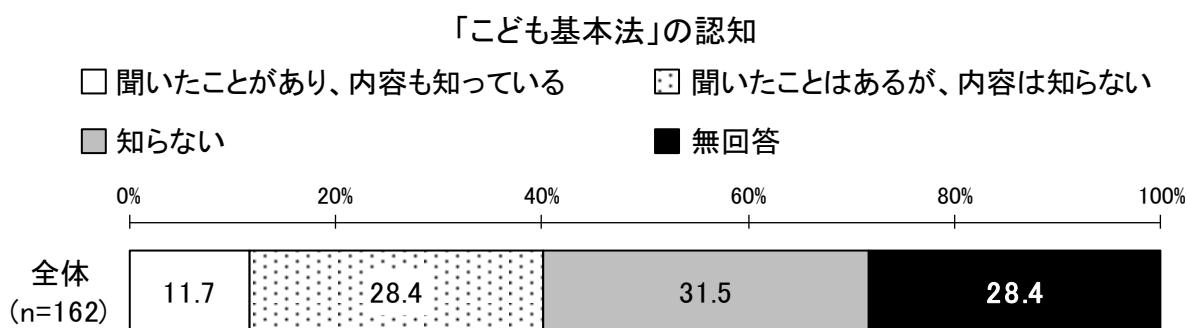
(2) 「こども基本法」の認知

問31 「こども基本法」を知っていますか。（1つだけ）

【こども基本法について】

すべてのこどもや若者が将来にわたって幸せな生活を送ることができる社会の実現を目指す法律です。国・県・市など、社会全体でこどもや若者に関する取組（「こども施策」）を進めていきます。

「こども基本法」の認知については、全体では「知らない」の割合が31.5%で最も高く、次いで「聞いたことはあるが、内容は知らない」（28.4%）、「聞いたことがあり、内容も知っている」（11.7%）の順となっています。

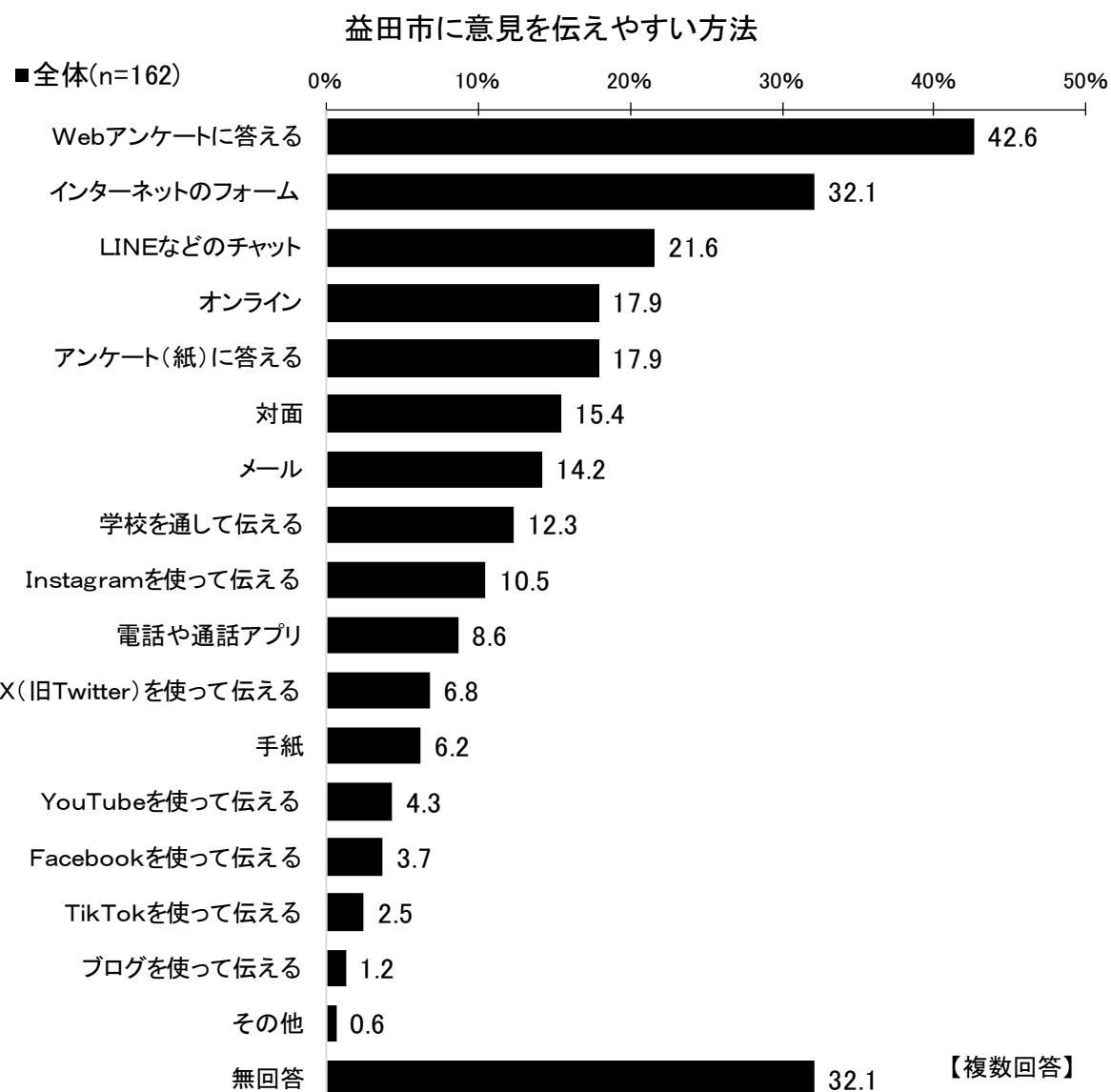


7 意見の伝達方法

(1) 益田市に意見を伝えやすい方法

問32 益田市からこどもや若者に関する取組について意見を求められたときは、どのような方法であれば伝えやすいですか。（いくつでも）

益田市に意見を伝えやすい方法については、全体では「Webアンケートに答える」の割合が42.6%で最も高く、次いで「インターネットのフォーム」（32.1%）、「LINEなどのチャット」（21.6%）などの順となっています。



益田市に意見を伝えやすい方法について、性別でみると、『男性』は『女性』に比べて「対面」「オンライン」「電話や通話アプリ」などの割合が高くなっています。一方、『女性』は『男性』に比べて「アンケート（紙）に答える」「Webアンケートに答える」などの割合が高くなっています。

年齢別でみると、すべての年齢層では全体と同様に「Webアンケートに答える」の割合が最も高くなっていますが、『16歳～19歳』では「オンライン」「学校を通して伝える」、『20歳～24歳』では「インターネットのフォーム」が「Webアンケートに答える」と同率で最も高くなっています。

益田市に意見を伝えやすい方法／性別、年齢別

		対象者 (n)	対面	オンライン	電話や通話アプリ	手紙	メール	インターネットのフォーム	LINEなどのチャット	X (旧Twitter) を使って伝える	Facebook を使って伝える
			162	25 15.4	29 17.9	14 8.6	10 6.2	23 14.2	52 32.1	35 21.6	11 6.8
全体											
性別	男性	65	15 23.1	17 26.2	10 15.4	6 9.2	11 16.9	21 32.3	15 23.1	5 7.7	3 4.6
	女性	94	10 10.6	11 11.7	4 4.3	4 4.3	12 12.8	30 31.9	19 20.2	5 5.3	3 3.2
	その他	2	0 0.0	1 50.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 50.0	1 50.0	1 50.0	0 0.0
年齢	16歳～19歳	25	5 20.0	8 32.0	0 0.0	3 12.0	6 24.0	6 24.0	3 12.0	3 12.0	0 0.0
	20歳～24歳	19	1 5.3	4 21.1	0 0.0	2 10.5	2 10.5	10 52.6	2 10.5	0 0.0	0 0.0
	25歳～29歳	25	4 16.0	4 16.0	2 8.0	2 8.0	3 12.0	8 32.0	5 20.0	2 8.0	0 0.0
	30歳～34歳	31	3 9.7	6 19.4	5 16.1	1 3.2	5 16.1	10 32.3	9 29.0	2 6.5	1 3.2
	35歳～39歳	61	12 19.7	7 11.5	7 11.5	2 3.3	7 11.5	18 29.5	16 26.2	4 6.6	5 8.2
		対象者 (n)	I n s t a g r a m を使つて伝える	T i k T o k を使つて伝える	Y o u T u b e を使つて伝える	プログを使って伝える	アンケート（紙）に答える	Webアンケートに答える	学校を通して伝える	その他	無回答
全体			162	17 10.5	4 2.5	7 4.3	2 1.2	29 17.9	69 42.6	20 12.3	1 0.6
性別	男性	65	5 7.7	2 3.1	3 4.6	1 1.5	8 12.3	25 38.5	8 12.3	1 1.5	19 29.2
	女性	94	10 10.6	2 2.1	3 3.2	1 1.1	20 21.3	42 44.7	11 11.7	0 0.0	32 34.0
	その他	2	2 100.0	0 0.0	0 50.0	0 0.0	1 50.0	2 100.0	1 50.0	0 0.0	0 0.0
年齢	16歳～19歳	25	5 20.0	0 0.0	1 4.0	2 8.0	5 20.0	8 32.0	8 32.0	0 0.0	9 36.0
	20歳～24歳	19	0 0.0	0 0.0	1 5.3	0 0.0	6 31.6	10 52.6	2 10.5	0 0.0	6 31.6
	25歳～29歳	25	2 8.0	1 4.0	1 4.0	0 0.0	3 12.0	12 48.0	1 4.0	0 0.0	9 36.0
	30歳～34歳	31	3 9.7	0 0.0	0 0.0	0 0.0	2 6.5	13 41.9	2 6.5	0 0.0	8 25.8
	35歳～39歳	61	7 11.5	3 4.9	4 6.6	0 0.0	13 21.3	26 42.6	7 11.5	1 1.6	19 31.1

III. 自由回答

(1) 益田市へ伝えたいこと

問33 益田市へ伝えたいことがありましたらご記入ください。（自由記述）

益田市へ伝えたいことについて、29人の方から回答がありました。具体的な回答内容を整理すると、回答件数は34件で、次のようになっています。

回答内容分類	回答件数
若者のためのまちづくりを希望	7
子どもの遊び場について	4
小児科の増設希望	4
イベント開催要望	3
医療について	2
子育て支援について	2
若者が戻りたくなるような施策の実施希望	2
助成金の要望	2
インフラ整備の要望	1
子どもの学力低下防止について	1
発達障がい支援	1
保育園の駐車場について	1
保育料の支払い取り締まりについて	1
母子家庭への支援の要望	1
その他	2
合計	34

各分類の回答内容は下記のとおりです。

若者のためのまちづくりを希望
若者が働きやすく生活しやすい場をつくって欲しい
若者が益田市に残りたいと思うような施策を行って欲しい。仕事の賃上げ、遊ぶ場所、子育て支援など
若者が遊べる大型ショッピングモール、商業施設をつくって欲しい
若者が遊べる施設があればうれしい
高齢化と人口減少の対策をして欲しい。若者が楽しめるようなまちづくり
中学生や高校生向けの施設を増やして欲しい
若者の就職先や進学先を益田市内に増やして欲しい

子どもの遊び場について

公園など子どもが遊べるような場所をつくって欲しい

公園が少ない

子どもが遊べる施設があればうれしい

小さい子どもが遊べる場所が欲しい。大きい子どもと一緒に小さい子どもはゆっくり遊ぶことができない

小児科の増設希望

小児科が少なくて困る

小児科が少ない

小児科を増やして欲しい

小児科を増やして欲しい

イベント開催要望

県外から益田市に移住してなかなか同世代のママと関わる機会がないので、子育て系のイベントが増えるとうれしい。

お祭りやイベントを増やして盛り上げて欲しい。SNSなどを活用してもっと宣伝して欲しい

空港マラソンのような全国から益田市に人が集まる企画をやって欲しい。柴犬に関連する全国から集まれるような企画に取り組んで欲しい

医療について

大きい病院にしか産婦人科がなく、ちょっとした不調くらいでは高い初診料がかかるため受診をためらってしまう

検診を市でやって欲しい

子育て支援について

子育てサポートを充実させて欲しい

子育てしやすい環境が欲しい。保育士が働きやすい職場環境が必要

若者が戻りたくなるような施策の実施希望

働き盛りの若者が益田市に戻りたくなるような政策を行って欲しい。県外在住歴10年以上の若者には現金給付など。県外に在住する子ども世帯に益田市へふるさと納税するようお願いして欲しい。回覧板など。人へ積極的に投資する市を目指して欲しい

益田出身の若者が進学や就職で地元を離れてしまっても、また益田に帰って生活や子育てがしたいと思える環境をつくって欲しい。若者が残りたい、一度地元を離れても帰って来たいと思える環境を整えて欲しい

助成金の要望

コロナ禍の給付金はひとり親世帯だけでなくふたり親世帯にも配ってほしかった
ひとり親世帯に大学費用補助金を出して欲しい

インフラ整備の要望

益田市の全地域のインフラ設備に投資して維持して欲しい

子どもの学力低下防止について

教員の働き方改革に取り組むのは良いが、全面に出すぎており、学力低下の現状から目を逸らしているのではないかと危惧している。公立高校が定員割れをする中で、大学受験で競争できるほどの学力担保ができるのか。行政の取組も消極的で、少子化対策も他自治体に倣っている感が否めない。将来への展望が明るい子はどんどん市外へ出ていくし、我が家もそうしたいと思う。益田市の何が良いのか、魅力を逆に納得できるように教えて欲しい

発達障がい支援

児童発達支援サービス事業所（あゆっこ）の継続をお願いしたい。益田市内でリハビリ出来る場所を増やして欲しい

保育園の駐車場について

保育園の敷地で保護者が使う駐車場は砂利じゃない方が良い。保育園では出入りがしにくく、入口があるのでもう少し配慮したところに駐車場をつくって欲しい

保育料の支払い取り締まりについて

保育料の支払いをもっと厳しく取り締まって欲しい

母子家庭への支援の要望

母子家庭で兄弟を育てるのにお金がかかるためこれからが心配

その他

行政の皆様いつも益田市のためにありがとうございます。良い街にしていきましょう
アパートの家賃が高すぎる。成人式の日程をもっと考えてあげて欲しい

(2) 生活を円滑に送ることができない人への支援のあり方

問34 現在、益田市では、社会生活や日常生活を円滑に送ることができない方々への支援のあり方などを検討しています。こうした支援のあり方についてのご意見や、現在、実際にお困りのことなどがあれば、自由にお書きください。（自由記述）

生活を円滑に送ることができない人への支援のあり方について、19人の方から回答がありました。具体的な回答内容を整理すると、次のようになっています。

回答内容分類	回答件数
子育てについて	4
学生への支援について	2
学校やSNSでの周知	1
行政からの支援について	1
産後鬱対策のための産後ケア事業期間延長希望	1
仕事困難者のための理解ある職場斡旋希望	1
社会保険料について	1
職場での世代間ギャップについて	1
専門医療機関で休日の受診受付をして欲しい	1
予備軍の早期発見と解決	1
頼れる相手の存在	1
老後の不安	1
話を聞いてあげることの大切さ	1
その他	2
合計	19

各分類の回答内容は下記のとおりです。

子育てについて
物価が高騰して生活が苦しい。育休中は収入も減る。ひとり親世帯への支援だけでなく他にも視野を広げて欲しい。共働き世帯は保育園に預ける時間が必然的に多くなる。延長料金制は19時以降など配慮してもらえると助かる。
ひとり親世帯や非課税世帯への給付金が支給されているが、住民税等の支払いがぎりぎりの子育て世帯がとても多く、一番しんどい思いをしている。物価の値上がりもしているので厳しい。
不適切保育が疑われる職場に対する相談、指導してくれる場所を知りたい。
ひとり親世帯以外の家庭も生活に困っている。物価の高騰、賃金の低さ、保育料や小中学校の学費、税金や光熱費の支払いや値上げなど、いろいろなことがあるので、補助金や給付金など金銭面の助成が欲しい。乳幼児の受診しやすい医療機関が少ない問題も解決して欲しい。

学生への支援について

奨学金の基準が厳しい。大学生に食糧支援なり何かして欲しい。高校生と大学生も学生である。

学校の先生が指導するのではなく、支援する視点を生徒に向けることが入口になる。

学校やSNSでの周知

小中学校でのPRやSNS広告で周知すれば広まるのではないかと思う。

行政からの支援について

まずは一週間でも寝食を共にすれば課題が明確になるのでは。自分たちは安全なところにいて、何か支援を、というのは驕りも良いところだと思う。

産後鬱対策のための産後ケア事業期間延長希望

産後鬱対策のために、産後ケア事業を生後3か月までではなく、1年延長して欲しい。

仕事困難者のための理解ある職場斡旋希望

仕事をするのがつらい人と、人手不足の企業が上手く繋がれる支援をして欲しい

社会保険料について

国民健康保険などが高すぎる。社会福祉協議会の貸付も意味がない。自殺者が増える。

職場での世代間ギャップについて

どの職場でも年齢層が高く、若者との世代間ギャップが生まれやすい。そこを解消出来れば社会生活も少しこそ改善されると思う。

専門医療機関で休日の受診受付をして欲しい

大人の発達障害への理解や診断できる医療機関が少ないとや、益田市内の病院は当たり前のように土日の休診が多い。世の中共働きの家庭、就労している人が多いなか、受診のために有給や希望休をとることにストレスや心身への疲労がたまる。就労（農家を含む）、学校など体を動かさないと生きていくことはできない。症状の早期発見、早期対応をすることで社会生活、日常生活を円滑に送れると思う。そのためにもまずは日曜日の開業医（内科と精神科）は必要だと思う。

予備軍の早期発見と解決

表面化している人への支援も大切だが、予備軍の早期発見と解決ができれば、結果的に少ない労力で運営ができると思う。

頼れる相手の存在

益田は人が温かくて、少し挫けた時にとっても助けられた。上司や先輩、先生、親、友達、頼って良いんだと教わる機会があると救われる人もいると思う。

老後の不安

今僻地に住んでいるが、将来も同じ場所に住み続けると仮定すると、老後が心配。

話を聞いてあげることの大切さ

何かをしてあげる、というよりもまずは話を聞いてあげたり、器になって受け止めてあげたりすることが大切だと思う。

その他

「益田市では、社会生活や日常生活を円滑に送ることができない方々」と言う定義がよくわからない。

しっかりとしたサポートを最後までして欲しい。

IV. 調査結果からみた課題

(1) 回答者自身について

回答者の生活水準を世間一般と比べた場合の位置については、「中の中」の割合が43.2%で最も高く、次いで「中の下」(27.8%)、「中の上」(13.0%)などの順となっています。

(問6)

自分は幸せだと思うかについて尋ねたところ、「幸せだと思う」の割合は74.1%で、7割以上の人が自分は幸せだと感じています。一方、「幸せだと思わない」の割合は11.7%となっています。(問11)

回答者自身については、『自分の親（保護者）から愛されている』に肯定的な回答の割合が83.9%となっています。『自分には自分らしさというものがある』(75.4%)、『人生で起こることは結局は自分に原因がある』(75.3%)なども肯定的な回答割合が高くなっています。

『回答者自身は努力すれば希望する職業につくことができる』について、年齢別でみると、年齢層が上がるにつれて“あてはまる”的割合が低くなっています。

幸福度別でみると、自分が幸せだと感じている人ほど努力すれば希望する職業につくことができると考えていることが伺えます。

『回答者自身は今の自分が好き』について、幸福度別でみると、自分が幸せだと感じている人ほど今の自分が好きだと考えていることが伺えます。(問10)

(2) 居場所や周囲とのかかわりについて

回答者にとっての居場所については、『家庭（実家や親族の家を含む）』『自分の部屋』『インターネット空間（SNS、YouTubeやオンラインゲームなど）』などで自分の居場所だと回答する割合が高く、7割以上が家族と良好な関係を築けている一方で、学校や職場などの日常生活を送る身近な場所よりもインターネット上に自分の居場所を見出している人が多くなっています。(問12)

家族・親族とのかかわりについては、『困ったときは助けてくれる』『楽しく話せる時がある』『いつもつながりを感じている』などで肯定的に回答している割合が6割以上となっています。(問15)

学校で出会った友人との現在のかかわりについては、『楽しく話せる時がある』『困ったときは助けてくれる』『他の人には言えない本音を話せることがある』などで肯定的に回答している割合が半数前後を占めています。(問16)

職場関係の人との現在のかかわりについては、『楽しく話せる時がある』『困ったときは助けてくれる』などで肯定的に回答している割合が6割以上となっています。(問17)

一方で、インターネット上における人とのかかわりについては、『何でも悩みを相談できる人がいる』を否定的に回答している人の割合は約7割を占めており、『困ったときは助けてくれる』『会話やメール等をよくしている』なども6割以上が否定的な回答をしています。(問19)

また、地域の人とのかかわりについても、『他の人には言えない本音を話せることがある』『何でも悩みを相談できる人がいる』『会話やメール等をよくしている』などで否定的に回答している人の割合は6割以上を占めています。(問18)

(3) 外出状況について

外出頻度については、「仕事や学校で平日は毎日外出する」の割合が58.0%で最も高く、次いで「普段は家にいるが、自分の趣味に関する用事のときだけ外出する」(4.9%)、「仕事や学校で週に3~4日外出する」(3.1%)などの順となっています。(問25)

基本的に普段ずっと家にいる人に、外出状況が現在の状態となってどのくらい経つか尋ねたところ、「3か月未満」が3人、「2年~3年未満」「3年~5年未満」が2人ずつ、「3か月~6か月未満」「6か月~1年未満」「10年~15年未満」が1人ずつという結果となりました。(問25-1)

外出状況が現在の状態となって6か月以上経っている人に、外出状況が現在の状態になったのは何歳の頃か尋ねたところ、「25歳~29歳」が4人、「30歳~34歳」が1人という結果となりました。(問25-2)

外出状況が現在の状態となって6か月以上経っている人に、外出状況が現在の状態になった理由を尋ねたところ、「その他」が3人、「特に理由はない」が2人、「妊娠したこと」「退職したこと」「新型コロナウイルス感染症が流行したこと」が1人ずつという結果となりました。「その他」の主な記述内容は、「リモートワークメインになった」が1人となっています。(問25-3)

外出状況が現在の状態となって6か月以上経っている人に、過去6か月間で家族以外の人と会話をしたか尋ねたところ、「ときどき会話をした」が3人、「よく会話をした」が2人、「ほとんど会話をしなかった」が1人という結果となりました。(問25-5)

(4) 日常生活について

生活を円滑に送ることができなかつた経験があるかについて尋ねたところ、「経験がない」の割合が33.3%となっています。一方、「経験がある」の割合は32.0%となっています。(問26)

生活を円滑に送ることができなかつた主な原因として、自分自身については「人づきあいが苦手」「何事も否定的に考えてしまう」「悩みや不安などが相談できない」、家族・家庭については「親(保護者)の過干渉」「家庭が貧しい」「家族内の不和や離別(離婚)」「家庭内での孤立(家族間のコミュニケーションが希薄)」「親(保護者)への反発」、学校については「集団行動が苦手」「いじめを受けた」「成績が悪い、授業についていけない」、仕事・職場については「上司や同僚との関係が悪い」「仕事の量や内容が自分の能力を超えている」「仕事が自分に向いていない」「仕事上でのミス」「いじめを受けた」「働きたくない」などが上位となっています。(問26-1)

生活を円滑に送ることができなかつた状態が改善した経験について尋ねたところ、「改善した経験がある」の割合は59.6%となっています。一方、「改善した経験はない」の割合は32.7%となっています。(問26-2)

状態が改善したきっかけや役に立ったことについては、「時間がたって状況が変化したこと」の割合が58.1%で最も高く、次いで「家族や親戚の助け」(54.8%)、「友人の助け」「就職・転職したこと」(同率41.9%)などが上位となっています。(問26-3)

生活を円滑に送ることができない状態になったときに相談したい相手については、「相手が同じ悩みを持っている、持っていたことがある」の割合が30.9%で最も高く、次いで「匿名で(自分が誰かを知られずに)相談できる」(21.0%)、「相手が同世代である」(19.1%)などが上位となっています。(問27)

誰にも相談したくないと回答した人にその理由を尋ねたところ、「相談しても解決できないと思うから」の割合が47.4%で最も高く、次いで「誰にも知られたくないことだから」(31.6%)、「相手がどんな人かわからないから」「相手にうまく伝えられないから」「裏切られたり、失望するのが嫌だから」(同率21.1%)などが上位となっています。(問27-1)

(5) 子ども・若者を対象にした育成支援機関について

子ども・若者を対象とした育成支援機関の認知について尋ねたところ、「児童相談所・福祉事務所などの児童福祉機関」の割合が46.3%で最も高く、次いで「職業安定所（ハローワーク）・ジョブカフェ・地域若者サポートステーションなどの就労支援機関」（40.1%）、「児童館」（28.4%）などの結果となっています。（問28）

子ども・若者を対象とした育成支援機関等を利用したことはあるかについて尋ねたところ、「ない」の割合が69.5%で、約7割を占めています。一方、「ある」の割合は30.5%となっています。（問28-1）

子ども・若者を対象とした育成支援機関等を利用したいかについて尋ねたところ、「利用したい」の割合は32.1%となっています。一方、「利用したくない」の割合は37.6%となっています。（問29）

(6) 益田市へ伝えたいことについて

益田市に意見を伝えやすい方法について尋ねたところ、「Webアンケートに答える」の割合が42.6%で最も高く、次いで「インターネットのフォーム」（32.1%）、「LINEなどのチャット」（21.6%）などの結果となりました。

性別でみると、『男性』は『女性』に比べて「対面」「オンライン」「電話や通話アプリ」などの割合が高くなっています。一方、『女性』は『男性』に比べて「アンケート（紙）に答える」「Webアンケートに答える」などの割合が高くなっています。

年齢別でみると、すべての年齢層では全体と同様に「Webアンケートに答える」の割合が最も高くなっていますが、『16歳～19歳』では「オンライン」「学校を通して伝える」、『20歳～24歳』では「インターネットのフォーム」が「Webアンケートに答える」と同率で最も高くなっています。（問32）

益田市へ実際に伝えたいことについては、若者のためのまちづくり、子どもの遊び場、小児科の増設希望、イベント開催要望などがありました。（問33）

生活を円滑に送ることができない人への支援のあり方について自由意見を求めたところ、子育て、学生への支援などの回答がありました。（問34）

益田市 こども・若者の意識と生活に関する調査
結果報告書

発行日 令和6年8月
発行 益田市 福祉環境部子ども福祉課

〒698-0024 島根県益田市駅前町17番1号
益田駅前ビルEAGA階
TEL: 0856-31-0243